様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	中京大学
設置者名	学校法人梅村学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文	日本文	夜・通信	12	8	0	20	13	
	言語表現	夜・通信		4	4	20	13	
	歴史文化	夜・通信		8	0	20	13	
国際英語	国際英語学科 国際英語キャリア専攻	夜・通信		2	2	16	13	
	国際英語学科 英語圏文化専攻	夜・通信		2	4	18	13	
	国際英語学科 国際学専攻	夜・通信		2	8	22	13	
国際教養	国際教養	夜・通信		0	4	16	13	
国際	国際学科 国際人間学専攻	夜・通信		14	0	26	14	
	国際学科 国際政治学専攻	夜・通信		14	0	26	14	
	国際学科 国際経済学専攻	夜・通信		2	12	26	14	
	国際学科 GLS 専攻	夜・通信		2	0	14	14	
	言語文化学科 複言語・複文化学専攻	夜・通信		14	0	26	14	
	言語文化学科 英米学専攻	夜・通信		14	0	26	14	

心理	心理	夜・通信		0	25	37	13	
現代社会	現代社会学科 社会学専攻	夜・通信		8	0	20	13	
	現代社会学科 コミュニティ学専攻	夜・通信		10	0	22	13	
	現代社会学科 社会福祉学専攻	夜・通信		6	6	24	13	
	現代社会学科 国際文化専攻	夜・通信		8	10	30	13	
法	法律	夜・通信		0	36	48	13	
総合政策	総合政策	夜・通信		0	20	32	13	
経済	経済	夜・通信		0	18	30	13	
経営	経営	夜・通信		0	38	50	13	
工	機械システム工	夜・通信		0	26	38	13	
	電気電子工	夜・通信		0	26	38	13	
	情報工	夜・通信		0	12	24	13	
	メディア工	夜・通信		0	8	20	13	
スポーツ科	スポーツ教育	夜・通信		27	2	41	13	
	競技スポーツ科	夜・通信		31	0	43	13	
	スポーツ健康科	夜・通信		23	6	41	13	
	トレーナー	夜・通信		25	2	39	13	
	スポーツマネジメント	夜・通信		23	8	43	13	

（備考）
国際英語学部及び国際教養学部は 2020 年度より募集停止。
国際学部は 2020 年度に新設。
トレーナー学科及びスポーツマネジメント学科は 2021 年度に新設。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ（以下 URL）にて「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表」を公開 https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/pdf/academics/jyugyou_kamoku.pdf 該当科目のシラバス内容に関しては以下 URL から閲覧可能 https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	中京大学
設置者名	学校法人梅村学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.umemura.ac.jp/information/a4.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	特定非営利活動法人理事長	2021.10.01 ～ 2025.9.30	広報
非常勤	会社代表取締役社長	2021.10.01 ～ 2025.9.30	経営企画
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中京大学
設置者名	学校法人梅村学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） **○授業計画（シラバス）の作成過程** １．全学組織である教育推進センター委員会において「シラバス入稿時の留意事項」（以下URL参照）の作成・学内承認・学内周知を実施 その後、紙媒体の「シラバス入稿時の留意事項」を全教員に対して配布し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項に関する注意点などを周知 ２．各学部教授会にて「シラバス入稿時の留意事項」をもとに、シラバスの作成と活用に関するFD（シラバスの趣旨・留意事項等の確認、内容充実や活用方法に関する意見交換など）を実施 ３．シラバス入稿内容の適切性検証や、その充実を目的に、学部委員によるシラバス第三者チェックを、全科目を対象に実施 ４．３月中旬にシラバスをホームページ上（以下URL参照）にて公開 □中京大学「シラバス入稿時の留意事項」 https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/news-staff/cb6aceb983120bdec89b6d067509f07a_2.pdf □中京大学シラバス https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus **○授業計画作成・公表時期** ・授業計画（シラバス）作成…12月～1月　※科目担当者が入稿した内容の第三者チェックを２月に実施 ・授業計画（シラバス）公表…3月中旬頃（履修登録の約２週間前）	
授業計画書の公表方法	インターネットを利用し、対象者を特定せず広く一般に示している。（以下URL） https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

本学は、学則において成績評価基準を規定している。開講科目すべてのシラバスには、「学修到達目標」「成績評価方法・基準」「授業方法」「授業計画」等を明示しており、各教員は記述内容に基づいた授業を行い、客観的な方法と基準により各学生の学修成果を評価している。

さらに、全学的には学生の学習成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準、評価の実施方法などについて定めたアセスメントポリシーを策定・公開している。

□中京大学「アセスメントポリシー」
https://www.chukyo-u.ac.jp/information/pdf/activity/assessment-polisy.pdf

□成績評価基準
https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/pdf/catalog/common/binran_2023_p62-p65.pdf

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

〇GPA 指標の算出方法・目的

《GPA 算出式》

$$\mathrm{GPA} = \frac{4.0 \times \text{Ｓの修得単位数} + 3.0 \times \text{Ａの修得単位数} + 2.0 \times \text{Ｂの修得単位数} + 1.0 \times \text{Ｃの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（ ＤやＦの単位数も含む ）}}$$

《GPA 導入の目的》

①大学教育における成績評価基準の標準化
②厳格な成績評価による教育効果の向上

〇GPA の適切な実施方法

①セメスターごとの GPA を自動で算出し、学生に開示する個人の成績表に掲載している。
②GPA の算定方法については、学生便覧やホームページ上（以下参照）で公開し、周知を行っている。
https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/pdf/catalog/common/binran_2023_p62-p65.pdf
③各学部・学年ごとの成績分布表（GPA 分布）を作成し、機関として状況の把握に努めるとともに、学生に対して学内ポータルシステムを通じて公表している。（全学部）

客観的な指標の算出方法の公表方法	GPA の算定方法については、学生便覧やホームページ上（以下参照）で公開し、周知を行っている。 https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/pdf/catalog/common/binran_2023_p62-p65.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） **○卒業の認定に関する方針の具体的な内容** 卒業の認定に関する方針は、全学ディプロマポリシーを定めるとともに、すべての学部学科（教育プログラムごと）でそれぞれディプロマポリシーを定め、公表（以下 URL）している。 □中京大学全学ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/pdf/activity/policy/dp/dp01.pdf □各学部学科ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html **○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況** 各学部において卒業要件（卒業所要単位数、その他要件）を学生便覧にて学生に開示している。卒業認定にあたり、学生の修得単位数等を踏まえ、各学部において卒業判定会議等を実施し、卒業可否の原案を審議する。最終的には学長が卒業判定の認定を行う。また、 ・2016 年度にガイドラインに基づき全学的に DP の見直しを行った。 ・学部ディプロマポリシーで示した学修成果の項目のうち、各科目がどの要素と関連するのかを示したカリキュラムマップを策定し、公表している。卒業生の単位修得科目の集計と分析を行うことで、学修成果と各科目との関係、ひいてはカリキュラムマップの適切性検証を実施している。 □カリキュラムマップ https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html	
卒業の認定に関する方針の公表方法	中京大学ホームページ上で公表している。 □中京大学全学ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/pdf/activity/policy/dp/dp01.pdf □各学部学科ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html

様式第２号の４－①【(4)財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	中京大学
設置者名	学校法人梅村学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
財産目録	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
事業報告書	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
監事による監査報告（書）	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2024 年度（令和 6 年度）事業計画　　対象年度：令和 6 年度）
公表方法：https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
中長期計画（名称：第Ⅱ期（2024 年度-2028 年度）中期経営計画　　対象年度：令和 6 年度-令和 10 年度）
公表方法：https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/data/b3.html#a2

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/data/b3.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　文学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 文学部日本文学科、言語表現学科及び歴史文化学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。 （１）　日本文学科は、研究目標を世界文学における日本文学の持つ普遍性及び特殊性について実証的に考究することに置き、教育目標を日本文学科に学ぶ学生の自己実現をサポートし、伝統的な価値観を踏まえつつ多様化する社会に建設的に関わることのできる有為な人材を養成することに置く。これらの目標実現のために、言語表現学科及び歴史文化学科との連携の下、古典籍を含む資料の収集を段階的に図り、また、文学事跡の実地踏査を行う等実物に即した教育研究活動の実践に努める。 （２）　言語表現学科は、高度情報化社会における日本語による多様な表現活動及び日本語文化全般を研究対象とする。現代メディアの状況を踏まえた「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を通して、情報を正確に理解した上で、的確な美しい日本語で自身の考え又は思いを表現・発信できる能力の養成を教育上の目的とし、日本文学科及び歴史文化学科との連携の下、その能力を高度に発揮して表現活動の第一線で活躍できる専門家を始め、優れた日本語運用能力・コミュニケーション能力によって社会に貢献できる人材を養成する。 （３）　歴史文化学科は、日本史学及び日本民俗学を中心とし、かつ、宗教学、社会学、地理学等のうち歴史的なアプローチを行う上で隣接する学問分野を研究対象とする。日本の歴史について正確な知識を有し、地域の歴史遺産及び人々の営みの歴史的多様性に敬意を抱くことを教育上の目的とし、歴史の知識を糧としつつ現代の諸課題に実証的態度で向き合い、心豊かな社会の建設に貢献できる人材を養成する。そのため、日本文学科及び言語表現学科との連携の下、史料調査、実地踏査等実物に即した教育研究活動の実践に努める。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） **文学部日本文学科** 文学部日本文学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ １．日本文学の歴史的変遷について理解し、説明することができる。 ２．世界の多様な文学や文化の中で日本文学を理解し、説明することができる。 ３．日本語の口語や文語に関する正しい知識や文字を修得し、上代から現代までの各時代の文学作品を正しく読み解くことができる。 ４．日本文化の諸相について理解し、説明することができる。 ５．日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。 ６．卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。 **文学部言語表現学科** 文学部言語表現学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。

＜学修成果（教育目標）＞
1．日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識を有し、また理解し、説明することができる。
2．「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。
3．言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を的確に判断することができる。
4．言語による表現を伴う幅広い分野に学問的対象を求め、客観的・科学的に観察・分析することができる。
5．日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達成することができる。
6．卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。

文学部歴史文化学科
文学部歴史文化学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。
＜学修成果（教育目標）＞
1．歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。
2．古代から近現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。
3．日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。
4．地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断の下にその保存や活用に貢献できる。
5．日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
6．卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）

（概要）
文学部日本文学科
文学部日本文学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。
文学部日本文学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。
＜専門教育課程（学部固有科目）の構成＞
1．卒業所要単位は125単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。
①日本文学及び日本語学を学ぶ上での基礎を身につける科目（基礎科目）として、「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「比較文学Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイン」を配置します。
②基幹科目として、「日本語史・日本語学史Ⅰ・Ⅱ」「上代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中古文学を読むⅠ・Ⅱ」「中世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ」「現代文学Ⅰ・Ⅱ」「児童文学」「大衆文学」「外国文学の世界」等を配置します。
③展開科目として、「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「中国文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学史」「演劇の世界」「コンピュータ活用技術」「コンピュータで学ぶ文章作法」「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」「国語教材論Ⅰ・Ⅱ」「中国文学を読むⅢ・Ⅳ」「日本

語日本文学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」「大衆文化」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」「メディア史」「芸能文化」「文章技術論Ⅰ・Ⅱ」「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「レトリック論」「読書の文化史」「文字の文化史」「出版の文化史」「翻訳論」「民俗芸能論」「文化人類学」「日本文化史」「古文書読解入門」「有職故実」「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書道史Ⅰ・Ⅱ」「書論」「書学」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「図書館概論」「図書館情報資源概論」「仕事のコミュニケーション」「インターンシップ」「海外留学科目」「短期海外研修」等を配置します。

④演習科目として「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置します。

２．本学科では、1 年次に基礎科目 17 単位を履修し、2 年次に基幹科目のうちの選択必修科目から 12 単位以上と、演習科目である「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」4 単位を履修し、3・4 年次に卒業研究の執筆へと導く演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」8 単位を履修するという形で、段階的な学びができるようなカリキュラムを組んでいます。また、隣接する言語表現学科及び歴史文化学科の科目も卒業所要単位としてそれぞれ 8 単位まで履修することができます。

３．本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

①「郷土の文学」：東海地方出身の作家や、東海地方にゆかりのある文学作品について理解することにより、歴史を通じて形成された愛知県の文化の特質等について考えます。

②「図書の世界」：中京大学図書館が所蔵する、この地区の大学では質量とも屈指の和書等の実物を示し、見て、さわることにより、昔の書物に対する理解を深めます。

③「短詩型文学の世界」：短歌、俳句という世界に例のない定型詩の共通点と相違点を学び、海外の人にも説明できるような知識を身につけます。

４．「学修成果」と科目との関係は、以下のとおりです。

①日本文学の歴史的変遷について理解し、説明することができる。
「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「日本文学入門Ⅱ」等

②世界の多様な文学や文化の中で日本文学を理解し、説明することができる。
「比較文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「中国文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学史」「外国文学の世界」「演劇の世界」「翻訳論」等

③日本語の口語や文語に関する正しい知識や文字を修得し、上代から現代まで各時代の文学作品を正しく読み解くことができる。
「日本文学入門Ⅰ」「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本語史・日本語学史Ⅰ・Ⅱ」「上代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中古文学を読むⅠ・Ⅱ」「中世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近代文学を読むⅠ・ Ⅱ」「現代文学Ⅰ・Ⅱ」「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」等

④日本文化の諸相について理解し、説明することができる。
「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書論」「書学」「児童文学」「大衆文学」「日本語日本文学特論Ⅱ」「民俗芸能論」「文化人類学」「日本文化史」「有職故実」等

⑤日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「コンピュータで学ぶ文章作法」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」等

⑥卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。
「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「コンピュータ活用技術」「図書館概論」「国語教材論Ⅰ・Ⅱ」等

文学部言語表現学科

文学部言語表現学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部言語表現学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

＜専門教育課程（学部固有科目）の構成＞

１．卒業所要単位は125単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。

①言語による表現全般を研究対象とする言語表現学という学問を総括的に捉え、基礎科目として、「言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「文章技術論Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイン」を配置します。

②基幹科目として、以下の科目を配置します。

②－１　日本語及び日本語文化に関する科目：「レトリック論」「文字の文化史」「社会生活とことば」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」「地域とことばⅠ・Ⅱ」

②－２　コミュニケーション文化に関する科目：「メディア・リテラシー」「実践話術」「広告文化論」「芸能文化」「身体表現」「広告の現場」「映像文化」「議論の技術」「コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」

②－３　書物・読書文化に関する科目：「編集の実際」「読書の文化史」「出版の文化史」「翻訳論」「情報の倫理」「創作Ⅰ・Ⅱ」

③各自の興味・関心をいっそう深めるために自由に履修できる展開科目として、以下の科目を配置します。

③－１　日本語文化に関する科目：「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」「情報技術とことば」「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書道史Ⅰ・Ⅱ」「書論」「書学」「日本文化史」「民俗芸能論」

③－２　コミュニケーション文化に関する科目：「メディア史」「コンピュータ活用技術」「コンピュータで学ぶ文章作法」「ジャーナリズム論」「広告制作」「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「映像文化」「芸能とことば」「芸能文化」「話芸の世界」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

③－３　書物・読書文化に関する科目：「大衆文化」「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「上代・中古・中世・近世・近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「図書館概論」「図書館情報資源概論」

④①～③の科目で養った能力を活かして、卒業研究を完成させるための演習科目として、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置します。

２．本学科では、次のように段階的な学びが行えるようカリキュラムを組んでいます。1年次に基礎科目（17単位）を履修し、2年次に基幹科目の選択必修科目から12単位以上と、演習科目である「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（4単位）を履修し、これを学問的土台とします。以上の土台固めをしながら、自身の卒業研究テーマをにらんで展開科目を履修し、3・4年次に演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」（8単位）を履修し、卒業研究を完成させます。また、隣接する日本文学科及び歴史文化学科の科目も卒業所要単位として合計8単位まで算入することができます。

３．本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

①「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」：現役で活躍するアナウンサーによる講義と実技によって、「会話力」「話す力」を身につけ、言語の表現力を養う。

②「芸能とことば」：日本の伝統芸能である「狂言」を講義と実技によって体感する経験が得られ、日本文化に対する奥深い理解を身につける。

③「広告制作」：テレビCMや新聞広告制作から、アイデア発想法と共感を生む言語表現を学ぶ。公募コンテストも利用して演習形式で実践する。

４．「学修成果」と科目との関係は、以下のとおりです。

①日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識を有し、また理解している。
「言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」等

②「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。
「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「文章技術論Ⅰ・Ⅱ」「実践話術」「レトリック論」「議論の技術」等

③言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を的確に判断することができる。
「ジャーナリズム論」「メディア・リテラシー」「編集の実際」「社会生活とことば」「翻訳論」「情報の倫理」等
④言語による表現を伴う幅広い分野に学問的対象を求め、客観的・科学的に観察・分析することができる。
「読書の文化史」「文字の文化史」「出版の文化史」等
⑤日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」等
⑥卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。
「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「図書館概論」等

文学部歴史文化学科

文学部歴史文化学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部歴史文化学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

＜専門教育課程（学部固有科目）の構成＞

１．卒業所要単位は125単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。

①学科「基礎科目」群を置き、学科専門教育への導入的科目として、以下の科目を配置しています。

①－１　歴史文化学科で学ぶ内容の理解及び学びと社会との接点への関心に導くための「入門科目」として「歴史文化学入門」「古文書読解入門」「現代と歴史文化」「キャリアデザイン」を配置。

①－２　学科の中心的学問分野である日本史学・日本民俗学の各時代概説・概論として「古代中世史概説」「近世史概説」「近現代史概説」「民俗学概論」及び隣接分野である宗教学・外国史・社会学の概説・概論として「宗教学概論」「東洋史概説」「西洋史概説」「社会学概論」を配置。

②学科「基幹科目」群を置き、教育研究の到達目標に向けての核心とし、以下の科目を配置しています。

②－１　各時代・分野の資史料を正確に読解する能力を養う資史料講読科目として「古代史料講読」「中世史料講読」「織豊期史料講読Ⅰ・Ⅱ」「近世史料講読Ⅰ・Ⅱ」「近代史料講読Ⅰ・Ⅱ」「現代史料講読」「宗教史料講読Ⅰ・Ⅱ」「民俗資料講読Ⅰ・Ⅱ」を配置。

②－２　専門研究を支えるべく、より細分化された諸学問の基本知識を得るための科目として「日本思想史」「祭祀と信仰」「古文書学」及び資料調査の実践法を学ぶ諸科目として「標準古文書読解法」「金石文調査法」を配置。

②－３　各時代、民俗学・宗教史上の特定のテーマについて先端的研究成果を学ぶ科目として「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「近世史特論」「近代史特論」「郷土の民俗特論」「宗教文化特論」を配置。

②－４　演習科目として「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置し、Ⅰ・Ⅱ一貫した教員指導の下、Ⅰにおいては他者にもその意義が理解可能な研究課題を発見させ、Ⅱにおいてはその課題に即して歴史像を構築し他者に示せるよう導く。成果物として卒業研究（論文）を完成させる。

③学科「展開科目」群を置き、卒業研究の課題又は卒業後の進路に対応して必要となる科目を、学生自ら目的意識を持って選択履修してキャリア形成に資することができるようにし、以下の科目を配置しています。

③－１　各時代・分野にまたがるテーマを扱う諸科目
③－２　応用的テーマを扱う諸科目
③－３　コミュニケーション能力を修得させる諸科目

２．本学科では、段階的に学びを達成できるよう次のようにカリキュラムを組み、必修としています。

1 年次では、学科専門教育への無理のない導入として「入門科目」を含めた「基礎科目」17 単位を履修し、2 年次で「基幹科目」のうちの選択必修科目から 12 単位以上と演習科目である「踏査基礎演習」4 単位を履修し、今後の専門研究に向けて各種能力を培います。3・4 年次では演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」8 単位を履修し、卒業研究（論文）を完成させます。

３．本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

①「現代と歴史文化」

歴史学修・研究活動、歴史遺産・歴史的由緒を生かしたまちづくり、観光創出等の実例を知ることによって、歴史文化にかかわるこんにちにおける活動の広がり・諸相を知り、問題のありかと今後の新たな展開の可能性を考察します。

②「金石文調査法」

紙以外のさまざまな伝来品歴史資料の各種存在を知り、それらの調査・記録の方法を学びます。授業では、学生が実際に石塔から拓本を採取します。これら歴史資料を調査・記録するにあたって必要な基本知識を修得します。

③「踏査基礎演習」

特定の地域を対象とし、学生自身が踏査しつつ、当該地域の歴史文化に関する情報を集め、論理的思考に基づいてまとめ、ゼミ合同発表会において報告します。

４．「学修成果」と科目との関係は以下のとおりです。

①歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。

「古文書読解入門」「踏査基礎演習」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「古代史料講読」「中世史料講読」「織豊期史料講読Ⅰ・Ⅱ」「近世史料講読Ⅰ・Ⅱ」「近代史料講読Ⅰ・Ⅱ」「現代史料講読」「宗教史料講読Ⅰ・Ⅱ」「民俗資料講読Ⅰ・Ⅱ」「考古学調査法」「古文書学」「標準古文書読解法」「金石文調査法」

②古代から近現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。

「古代中世史概説」「近世史概説」「近現代史概説」「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「近世史特論」「近代史特論」

③日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。

「民俗学概論」「祭祀と信仰」「郷土の民俗特論」「文化人類学」「民俗芸能論」

④地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断の下にその保存や活用に貢献できる。

「標準古文書読解法」「金石文調査法」「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「郷土の民俗特論」「戦国織豊城館論」「歴史資料と博物館」「博物館概論」「地域と歴史文化情報」「図書館概論」「図書館情報資源概論」

⑤日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。

「踏査基礎演習」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

⑥卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。

「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）

文学部日本文学科

　文学部日本文学科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度等を有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を、広く求めています。

〈入学者に求める知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度〉

〔知識・技能〕

　文学部での学びは、「社会が必要とする〈日本文学、言語表現及び歴史文化〉の課題に対する問題意識を持ち、その解決方法を探る」ということであり、そのための広い視野と知識が求められます。その基本となる教科を、高等学校段階においてしっかりと学習しておくことが大切です。

・「日本文学、言語表現及び歴史文化」を学ぶには、同方面に関する幅広い知識と的確な理解力と柔軟な思考力が必要になります。そのためには、豊かな読書体験を積んでおかなければなりません。文芸作品はもちろん、現代の新聞や内外の歴史書等もしっかり読む習慣をつけてください。高等学校課程における国語関連科目、日本史関連科目等の学習が、強く望まれます。

・現代に必要とされる日本語能力は、実に広範なものです。さらに本学部の授業では、自分でレポートを書いたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりしますし、また４年次では卒業研究の作成が必須になっています。そのためには、適切な日本語で「聞く・読む・書く・話す」ことができなければなりません。高等学校課程における言語活動の充実をはかる学習が、強く望まれます。

・現代の文化や社会を理解するには、過去の人びとの精神や心性も学ばなければなりません。伝統的な文化遺産や古い習俗等への幅広い教養があってこそ、現代の多様な社会的事象への関心が深まるのです。そのためには、古今東西にわたる文化や歴史、さらに地理や思想等に関する基礎的な知識が必要となります。高等学校課程における「古典」「日本史」「世界史」「地理」「倫理」等の学習が、強く望まれます。

〔思考力・判断力・表現力〕

・自分でレポートや卒業研究を仕上げたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりするには、資料を調査して何が必要かを考えたり見分けたりする力、人に分かりやすく説明できる表現力が必要です。その基礎となるアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び。調べ学習やグループワークに基づく発表等）に、高等学校在学中から積極的に取り組んでいることが強く望まれます。

・高度情報社会では、多様な情報の中から正確な情報を見分け、メディアを通して適切に収集・発信するメディア・リテラシーを高めておくことが必要です。それを日頃から意識して、基礎となる思考力や判断力、求められる倫理意識に沿った表現力を磨く努力をすることが強く望まれます。

・文学部日本文学科の学びは、人間力を高める学びでもあります。相手の気持ちを思いやる思考力や、自分のふるまいの適否を見分ける判断力、チームワークを作るための表現力など、相手に敬意を持って接することで日々の生活を通して鍛えられる多くの能力があります。これらを身に付けていることが強く望まれます。

〔意欲・態度〕

　文学部日本文学科は、大学での充実した学びを達成するため、以下のような意欲を持ち、態度を身に付けた入学希望者を求めます。

・主体的に学習する意欲を持っていること。

・「日本文学、言語表現及び歴史文化」に関心を持っていること。

・解決を必要とする課題を発見し、それを解決し得る上記の知識や能力の修得を目指し、その強い意欲を持っていること。

・上記の知識や能力を介して、地域や国内外の社会とつながり、活躍・貢献したいと考えていること。
・柔軟な思考力や想像力を備えるとともに、コミュニケーション能力や表現能力を高めたいと考えていること。
　具体的には、各種入学試験要項において、出願資格及び試験科目を指定することにより、高等学校段階までに学ぶべき事項や修得しておくべき資格等を示しています。

文学部言語表現学科
　文学部言語表現学科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度等を有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を、広く求めています。
〈入学者に求める知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度〉
〔知識・技能〕
　文学部言語表現学科での学びは、「社会が必要とする＜言語表現、日本文学及び歴史文化＞の課題に対する問題意識を持ち、その解決方法を探る」ということであり、そのための広い視野と知識が求められます。その基本となる教科を、高等学校段階においてしっかりと学習しておくことが大切です。
・「言語表現、日本文学及び歴史文化」を学ぶには、同方面に関する幅広い知識と的確な理解力と柔軟な思考力が必要になります。そのためには、豊かな読書体験を積んでおかなければなりません。文芸作品はもちろん、現代の新聞や内外の歴史書等もしっかり読む習慣をつけてください。高等学校課程における国語関連科目、日本史関連科目等の学習が、強く望まれます。
・現代に必要とされる日本語能力は、実に広範なものです。さらに本学科の授業では、自分でレポートを書いたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりしますし、また４年次では卒業研究の作成が必須になっています。そのためには、適切な日本語で「聞く・読む・書く・話す」ことができなければなりません。高等学校課程における言語活動の充実をはかる学習が、強く望まれます。
・現代の文化や社会を理解するには、過去の人びとの精神や心性も学ばなければなりません。伝統的な文化遺産や古い習俗等への幅広い教養があってこそ、現代の多様な社会的事象への関心が深まるのです。そのためには、古今東西にわたる文化や歴史、さらに地理や思想等に関する基礎的な知識が必要となります。高等学校課程における「古典」「日本史」「世界史」「地理」「倫理」関連の学習が、強く望まれます。
〔思考力・判断力・表現力〕
・自分でレポートや卒業研究を仕上げたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりするには、資料を調査して何が必要かを考えたり見分けたりする力、人に分かりやすく説明できる表現力が必要です。その基礎となるアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び。調べ学習やグループワークに基づく発表等）に、高等学校在学中から積極的に取り組んでいることが強く望まれます。
・高度情報社会では、多様な情報の中から正確な情報を見分け、メディアを通して適切に収集・発信するメディア・リテラシーを高めておくことが必要です。それを日頃から意識して、基礎となる思考力や判断力、求められる倫理意識に沿った表現力を磨く努力をすることが強く望まれます。
・文学部言語表現学科の学びは、人間力を高める学びでもあります。相手の気持ちを思いやる思考力や、自分のふるまいの適否を見分ける判断力、チームワークを作るための表現力など、相手に敬意を持って接することで日々の生活を通して鍛えられる多くの能力があります。これらを身に付けていることが強く望まれます。
〔意欲・態度〕
　文学部言語表現学科は、大学での充実した学びを達成するため、以下のような意欲を持ち、態度を身に付けた入学希望者を求めます。
・主体的に学習する意欲を持っていること。

・「言語表現、日本文学及び歴史文化」に関心を持っていること。
・解決を必要とする課題を発見し、それを解決し得る上記の知識や能力の修得を目指し、その強い意欲を持っていること。
・上記の知識や能力を介して、地域や国内外の社会とつながり、活躍・貢献したいと考えていること。
・柔軟な思考力や想像力を備えるとともに、コミュニケーション能力や表現能力を高めたいと考えていること。

具体的には、各種入学試験要項において、出願資格及び試験科目を指定することにより、高等学校段階までに学ぶべき事項や修得しておくべき資格等を示しています。

文学部歴史文化学科

文学部歴史文化学科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度等を有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を、広く求めています。

〈入学者に求める知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度〉

〔知識・技能〕

文学部歴史文化学科での学びは、「社会が必要とする＜歴史文化の他、日本文学、言語表現＞の課題に対する問題意識を持ち、その解決方法を探る」ということであり、そのための広い視野と知識が求められます。その基本となる教科を、高等学校段階においてしっかりと学習しておくことが大切です。

・「歴史文化の他、日本文学、言語表現」を学ぶには、同方面に関する幅広い知識と的確な理解力と柔軟な思考能力が必要になります。そのためには、豊かな読書経験を積んでおかなければなりません。内外の歴史に強い興味・関心をもち、歴史書はもちろん、現代の新聞や文芸作品等もしっかり読む習慣をつけてください。高等学校課程における日本史関連科目、国語関連科目等の学習が、強く望まれます。
・現代の文化や社会を理解するには、過去の人びとの精神や心性も学ばなければなりません。伝統的な文化遺産や古い習俗などへの幅広い教養があってこそ、現代の多様な社会的事象への関心が深まるのです。そのためには、古今東西にわたる文化や歴史、さらに地理や思想などに関する基礎的な知識が必要となります。高等学校課程における「日本史」「世界史」「地理」関連科目等の学習が、強く望まれます。
・現代に必要とされる日本語能力は、実に広範なものです。さらに本学部の授業では、自分でレポートを書いたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりしますし、また４年次では卒業研究の作成が必須になっています。そのためには、美しく正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができなければなりません。高等学校課程における言語活動の充実をはかる学習が、強く望まれます。

〔思考力・判断力・表現力〕

・自分でレポートや卒業研究を仕上げたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりするには、資料を調査して何が必要かを考えたり見分けたりする力、人に分かりやすく説明できる表現力が必要です。その基礎となるアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び。調べ学習やグループワークに基づく発表等）に、高等学校在学中から積極的に取り組んでいることが強く望まれます。
・高度情報社会では、多様な情報の中から正確な情報を見分け、メディアを通して適切に収集・発信するメディア・リテラシーを高めておくことが必要です。それを日頃から意識して、基礎となる思考力や判断力、求められる倫理意識に沿った表現力を磨く努力をすることが強く望まれます。
・文学部歴史文化学科の学びは、人間力を高める学びでもあります。相手の気持ちを思いやる思考力や、自分のふるまいの適否を見分ける判断力、チームワークを作るための表現力など、相手に敬意を持って接することで日々の生活を通して鍛えられる多くの能力があります。これらを身に付けていることが強く望まれます。

〔意欲・態度〕

文学部歴史文化学科は、大学での充実した学びを達成するため、以下のような意欲を持ち、態度を身に付けた入学希望者を求めます。

・主体的に学習する意欲を持っていること。
・「歴史文化の他、日本文学、言語表現」に関心を持っていること。
・解決を必要とする課題を発見し、それを解決し得る上記の知識や能力を修得すること、またその意欲を持っていること。
・上記の知識や能力を介して、地域や国内外の社会とつながり、活躍・貢献したいと考えていること。
・柔軟な思考力や想像力を備えるとともに、コミュニケーション能力や表現能力を高めたいと考えていること。

具体的には、各種入学試験要項において、出願資格及び試験科目を指定することにより、高等学校段階までに学ぶべき事項や修得しておくべき資格等を示しています。

学部等名　国際英語学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　国際英語学部国際英語学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立つ英語指導を基に英語力の育成を図り、英語コミュニケーション能力の育成、コンピュータを駆使した英語による発表力の育成等にある。また、英米の言語・文化の枠を超えた新しい国際的視野を持つ社会人を養成する。さらに、現代の国際化する企業組織、国際団体等で求められる多様な専門知識及び技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力並びに異文化に対する深い理解及び柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　国際英語学部国際英語学科は、定められた課程を修め、以下の全専攻共通と各専攻固有に掲げる学修成果をあげた者に対して学士（国際英語学）を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ ≪全専攻共通≫ １．国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。 ２．国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。 ３．グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。 ４．コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を収集でき、それらを客観的に評価できる。 ≪各専攻固有≫ ［国際英語キャリア専攻］ 　国際英語キャリア専攻は、言語の本質に対する深い理解や言語使用に対する鋭敏な感性を背景とした高度な英語運用能力と、国際的視野に立つ豊富な専門知識や技術を有し、国際実務や教育、研究の分野で即戦力となりうる人材の育成を図ります。また、言葉に対する体系的理解を深める中で論理性や建設的批判能力を高め、さらに、教育課程における主体的な学びを通して、あらゆる局面に主体的かつ自律的に対応する能力を身につけることによって、国際社会にあって真に自立しリーダーシップを発揮できる人材の育成を図ります。 ５．高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等に対応可能な高度な言語運用を行える。 ６．言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できる。 ７．ICT を含め、国際実務や教育に資する知識や技術を高め、それらをあらゆる活動の場に応用できる。 ［英語圏文化専攻］ 　英語圏文化専攻は、英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国の歴史・思想・文化を始め、公用語として英語を用いる国々の歴史・思想・文化を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解するための専門的知識及び幅広い教養を修得します。また、グローバル化時代における英語圏文化の多様性を理解すると共に、現在の異文化交流の可能性とその問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に分析できる判断力も身につけます。なお、本専攻の卒業生は、グローバル化時代において必要とされる高度な英語運用能力及び情報収集・処理能力を養い、世界の多種多様な人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて貢献できる人材となることが期待されます。

８．英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国を始め、公用語として英語を用いる国々の文化、すなわち広範な英語圏諸国の文化に関する知識を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解できる。
９．英語圏文化の多様性を総合的に把握し、グローバル化時代に相応しい異文化交流の可能性と、その問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に探究できる。
１０．グローバル化社会の一員としての社会的責任とリーダーシップ精神を常に意識しつつ、世界の幅広い人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて生涯にわたり自律的に学修できる。
［国際学専攻］
国際学専攻は、世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立ち、広く西洋と東洋の社会・歴史・文化・思想・宗教を踏まえた英語コミュニケーション能力の育成を行います。あわせて、IT 技術や時事問題の知識等、ビジネスに応用できる汎用性のある知識・技能を培い、英語のスキルと国際的視野をあわせ持つ世界に通じる教養人・職業人を養成します。さらに、英語圏に加えて新興国における研修を通して、語学力、職業上の専門知識及び異文化適応力の養成を目的とします。
１１．他者の行動に影響のある説得や交渉を英語で行うことができる。
１２．積極的に他者と協力しながら学修活動に参加できる。
１３．自発的・自立的に課題を発見し、効果的な方法で調査し、論理的に分析・議論をし、かつ、「伝わる」表現でまとめることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）
国際英語学部国際英語学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を教養教育課程（全学共通科目）と専門教育課程（学部固有科目）で構成し、実施します。
≪教養教育課程（全学共通科目）≫
全学共通科目の卒業要件単位数は、40 です。教養教育課程は、全専攻共通になっています。全学共通科目を中心に様々な科目の中から、自然科学、社会科学、人文科学、語学の各領域を満遍なく目的意識を持って自律的に履修することによって、幅広い教養とともに多面的な思考力、論理的思考力、コミュニケーション能力等を養い、豊かな教養人となるために自己研鑽を継続し、社会の発展に貢献しようとする姿勢を磨きます。

国際英語キャリア専攻
≪専門教育課程（学部固有科目≫
学部固有科目の卒業要件単位数は、84 です。国際英語キャリア専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。
言語に対する体系的理解と高度な英語運用能力を基盤とし、国際ビジネスや教育の分野で必要となる知識や技術を獲得させることで、国際社会のあらゆる局面に対応でき、さらに、高い論理性、倫理性、建設的批判能力を駆使して社会的責任を自覚しつつあらゆる局面に主体的かつ自律的に対応し、国際社会にあって、真に自立しリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的とします。
１．履修区分に応じて科目群に分類
①必修科目（42 単位）はその主たる学修目標に従って以下のように分類されます。
Ａ．英語運用能力の向上を目的とする科目群
「Oral Communication Ⅰ～Ⅵ」、「Academic Writing Ⅰ～Ⅳ」、「Reading Ⅰ～Ⅳ」、「英文電子文書作成Ⅰ・Ⅱ」、「海外基礎研修」
Ｂ．英語や言葉に対する体系的理解を深めることを目的とする科目群
「国際英語入門」、「英語学概説Ⅰ」、「言語システム論Ⅰ」、「国際英語キャリア演習Ⅰ～Ⅵ」
Ｃ．キャリア教育を目的とする科目群
「国際キャリア・ディベロップメント」

Ｄ．初年次教育を目的とする科目群
「国際英語キャリア入門演習Ⅰ・Ⅱ」
必修科目においては、英語運用の４技能を満遍なく向上させるため当該の科目を配置するとともに、言語の体系的理解や、職業的能力の向上の基礎となる科目を配置しています。特に、１年次に海外研修を必修化し、英語運用の実際や国際ビジネス等の現状を理解することによって、その後の学修への方向性を確立させるとともに、それへ向けての取り組みを加速させています。
また、初年次教育においては、「国際英語キャリア入門演習Ⅰ・Ⅱ」を核として、すべての授業を通じて高等学校から大学へ円滑な移行を図るとともに、大学での学修が学問的にも社会的にも成果を上げるよう履修指導を含めた総合的大学リテラシーの指導を行います。また、授業外においてもゼミ担当教員が、随時個別指導を行います。
②選択必修科目（32 単位）はその主たる学修目標に従って以下のように分類されます。
Ａ．英語運用能力の向上を目的とする科目群
「PresentationⅠ～Ⅵ」、「英文電子文書作成Ⅲ・Ⅳ」、「Advanced Discussion Ⅰ～Ⅳ」、「Current EnglishⅠ ～Ⅳ」
Ｂ．英語や言葉に対する体系的理解を深めることを目的とする科目群
「実用英語運用法Ⅰ・Ⅱ」、「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」、「英語学概説Ⅱ」、「語形成論」、「英語の歴史Ⅰ・Ⅱ」、「国際社会言語学Ⅰ・Ⅱ」、「英語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」、「ことばの意味」、「言語学外書講読Ⅰ・Ⅱ」、「Language Variation」、「Language and Culture」、「言語システム論Ⅱ」、「海外研修Ａ～Ｃ」、「交換留学」、「セメスター留学」
Ｃ．キャリア形成に資する能力の向上を目的とする科目群
「英語資格Ⅰ～Ⅲ」、「ビジネス英語資格Ⅰ～Ⅲ」、「ビジネス翻訳実務Ⅰ・Ⅱ」、「翻訳と IT Ⅰ・Ⅱ」、「通訳演習Ⅰ・Ⅱ」、「国際言語管理」、「ビジネスとアジア英語」、「New Management Trends」、「Global Economic Trends」、「英語科教育法ⅠＡ・ⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢ」、「早期英語習得論Ⅰ・Ⅱ」、「ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ」、「海外業務体験Ⅰ～Ⅳ」
選択必修科目群においては、必修科目で獲得した技術的・学問的基盤に基づいて、主体的に科目を選択しつつ、英語運用能力を高度化し、言葉に対する体系的理解をさらに深め、国際的なあらゆる局面に即応できる知識を蓄えることが可能となる科目を配置しています。海外研修を選択必修としているため、結果として、卒業までに最低２回の海外研修を課しています。これにより、高度な英語運用能力を確かなものとするとともに、職業人としての活躍の場を世界に求める意識を浸透させています。
２．進路や関心に応じて３つの履修モデルを提示
①ビジネスキャリアを目指す学生の履修例
演習、講義等の授業のほか、海外研修等での現場体験を通じて、高い英語力を身につけ、その高い英語力を駆使して企業や公的機関で国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。
②言語研究者や英語教育専門家を目指す学生の履修例
言語に関する幅広い内容の講義・演習・実習を通じて、英語教員、英語教育研究者・言語研究者の志望者を、理論と実践の両面から育成することを目的とする。
③通訳者や翻訳者としての専門的活動を目指す学生の履修例
高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、海外研修を含む幅広い科目を履修させることによって、通訳者や翻訳者としてフリーランスでも活躍できる人材の育成を目指す。
３．国際英語キャリア専攻固有科目の特色
国際英語キャリア専攻では、高度の英語運用能力と言葉に対する体系的理解を基盤として、国際舞台に即応できる知識を活用して活躍する国際人の育成を目指しています。その専門科目として、英語運用能力、言語科学、キャリア関連の科目を重厚に配置しています。さらに、海外研修を２回義務付けることにより、獲得した知識や技術を机上のものにすることなく活用できるまで浸透させています。また、ゼミ指導を１年次から開始するこ

とによって高等学校から大学への円滑な移行を図るとともに、ネイティブ教員と日本人教員の共同授業、上級生によるチュートリアル等を通じて授業外でも学生の主体的学びを支援する仕組みを整えており、それらを支える施設（PC 教室、自習室等）も完備しています。その一方で、科目群の中での選択に幅を持たせることによって、目的を見失うことなく、自律的に履修ができるカリキュラムとなっており、生涯にわたるキャリア・ディベロップメントを見据えることができます。選択必修の海外研修においても、1 年間の交換留学から短期の研修まで選択できるようになっており、学生のニーズにあった選択が可能となっています。

４．学修成果と科目との関係

①高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等にも対応可能な高度な言語運用を行えます。

「Oral Communication Ⅰ～Ⅵ」、「Academic Writing Ⅰ～Ⅳ」、「Reading Ⅰ～Ⅳ」、「英文電子文書作成Ⅰ～Ⅳ」、「海外基礎研修」、「Presentation Ⅰ～Ⅵ」、「Advanced Discussion Ⅰ～Ⅳ」、「Current English Ⅰ～Ⅳ」

②言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できます。

「国際英語入門」、「英語学概説Ⅰ・Ⅱ」、「言語システム論Ⅰ・Ⅱ」、「国際英語キャリア入門演習Ⅰ・Ⅱ」、「国際英語キャリア演習Ⅰ～Ⅵ」、「実用英語運用法Ⅰ・Ⅱ」、「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」、「語形成論」、「英語の歴史Ⅰ・Ⅱ」、「国際社会言語学Ⅰ・Ⅱ」、「英語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」、「ことばの意味」、「言語学外書講読Ⅰ・Ⅱ」、「Language Variation」、「Language and Culture」、「海外研修 A～C」、「交換留学」、「セメスター留学」

③国際実務や教育に資する知識や技術を有し、それらをあらゆる活動の場に応用できます。

「国際キャリア・ディベロップメント」、「英語資格Ⅰ～Ⅲ」、「ビジネス英語資格Ⅰ～Ⅲ」、「ビジネス翻訳実務Ⅰ・Ⅱ」、「翻訳と IT Ⅰ・Ⅱ」、「通訳演習Ⅰ・Ⅱ」「国際言語管理」、「ビジネスとアジア英語」、「New Management Trends」、「Global Economic Trends」、「英語科教育法ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」、「早期英語習得論Ⅰ・Ⅱ」、「ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ」、「海外業務体験Ⅰ～Ⅳ」

英語圏文化専攻

≪専門教育課程（学部固有科目）≫

学部固有科目の卒業要件単位数は、84 です。英語圏文化専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。

英米のみならず、英語を公用語とする英語圏の言語文化に関する広範な専門知識と教養を自主的・主体的に学び、英語圏の文化の多様な価値観と文化を尊重し、異文化交流のあり方を倫理的、複眼的、かつ、体系的に理解できる判断力を身につけることを目的とします。あわせて、グローバル化時代に見合った高度な英語運用能力及び情報収集・処理能力を養い、社会的責任とリーダーシップ精神に関して理解を深めていくことで、日本だけでなく世界各国の発展に積極的に貢献できるグローバル人材の育成を目指しています。なお、成績評価は、あらかじめシラバスにより公表された授業計画及び学修到達目標を踏まえて厳正かつ適正に行われます。

１．履修区分に応じて科目群に分類

①必修科目（44 単位）は、学修目標に従って以下のように分類されます。

Ａ．学士（国際英語学）にふさわしい知見を獲得し、キャリア教育を目的とする科目群：国際英語学に関する知識の自主的・自律的修得及びキャリア形成に資する能力の向上を目指します。

「国際英語入門」、「国際キャリア・ディベロップメント」

Ｂ．英語運用能力の向上を目的とする科目群：グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力を身につけます。

「Oral Communication Ⅰ～Ⅳ」、「Academic Writing Ⅰ～Ⅳ」、「Reading Ⅰ～Ⅳ」、「Presentation Ⅰ～ Ⅳ」、「英文電子文書作成Ⅰ～Ⅳ」

Ｃ．英語圏文化の体系的理解を深めるべく、入門から卒業論文作成まで運営する演習科目群：能動的・主体的なディスカッションやディベートを通じて、初年次から英語圏文化の専門的な知識や幅広い教養をグローバルな視点から理解することができます。初年次教育では、演習形式を通じて、英語圏文化に関する入門的知識、又は語学及び専門教育科目を自主的・主体的に学修する手法を身につけることができます。4年次では、自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、またそれに基づいて自身の見解を卒業論文として完成させるための方法や英語・日本語の高度、かつ、専門的表現を修得できます。
「英語圏文化入門演習Ⅰ・Ⅱ」、「英語圏文化演習Ⅰ～Ⅵ」

Ｄ．基礎力をつけた3年次にさらに応用・発信型の英語力向上を目指す科目群：グローバル化社会において必要とされる実践的な英語能力を獲得することができます。
「Critical ReadingⅠ・Ⅱ」、「English Project Workshop」

②選択必修科目(14単位)は、学修目標に従って以下のように分類されます。

Ａ．3年次・4年次に上級レベルの英語運用能力を自主的・主体的に修得することを目的とする科目群
「Professional English Ⅰ ～Ⅳ」、「Professional WritingⅠ・Ⅱ」

Ｂ．英語圏文化について、地域区分により複眼的かつ体系的に知識を獲得する科目群
「イギリス研究入門」、「イギリス研究」、「アメリカ研究入門」、「アメリカ研究」、「英語圏研究入門」、「英語圏研究」、「イギリス文学A・B」、「アメリカ文学A・B」、「英語圏文学A・B」

Ｃ．座学を越えた体験学修の機会を与える海外研修科目群：長期・中期・短期の海外研修を通じて、現地で異文化交流を直接体験し、英語運用能力の向上とあわせて多文化・異文化理解に対する認識を深めることができます。
「交換留学」、「セメスター留学」、「海外大学研修1・2」、「海外セミナーⅠ・Ⅱ」

③選択科目（26単位）は、英語圏文化について幅広く学ぶべく多岐にわたり展開しています。

Ａ．英語による講義科目群
「American Social History」、「British Social History」、「History of Cultural ExchangesⅠ・Ⅱ」、「Media LiteracyⅠ・Ⅱ」、「Women’s History」、「Current TopicsⅠ・Ⅱ」を開講。

Ｂ．教員の免許状取得のための選択科目群
「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」、特に「英米文学」に関しては、「比較文学論」、「批評理論」、「エンターテインメント文芸」、「演劇文化論」を指定しています。

Ｃ．現代的な問題意識とニーズに応える科目群
「音楽文化論」、「映画文化論」、「現代文化論」、「児童文化論」

Ｄ．英語発信力を高める科目群：他者との協力・協働作業を通じて、協調性・社会性を身につけるとともに英語コミュニケーションの実践的能力を高めることができます。
「Intensive WorkshopⅠ・Ⅱ」

なお、英語圏文化専攻開講科目の特徴として、英語による講義科目・上級年次向け英語科目を海外から中京大学への交換留学生が参加する授業とし、それらを通じて本専攻生は実践的な異文化交流を体験できます。

２．進路や関心に応じて3つの履修モデルを提示

①教員の免許状取得を目指す学生の履修例
英語圏文化専攻が開講する講義・演習・実習により英語教員として英語の本流と文化的素養を身につけます。さらに他専攻が開講する英語学系科目・異文化理解系科目を選択科目として修得できるため、「教科に関する科目」については、卒業要件の範囲内で修得可能となっています。

②文化研究を目指す学生の履修例
高度な英語力を培った上に、多彩な文化研究科目を自らの興味・関心に沿い自主的に

選択履修し、豊かな教養人としてグローバル化社会で活躍できる能力を育成します。あるいは、大学院に進学し研究を続けるために必要とされる英語圏文化に関する専門的知識と幅広い教養を養います。

③文化交流とビジネスを目指す学生の履修例

社会的責任とリーダーシップ精神を保持し、実践的な英語力と文化的素養をビジネスに結びつけることを目指します。他専攻開講科目、国内企業インターンシップ等を積極的に活用し、現代のグローバル化社会のニーズに応えていきます。

３．英語圏文化専攻固有科目の特色

英語圏文化専攻では、グローバル化時代に相応しい高度かつ実践的な英語運用能力と、背景となる多種多様な英語圏文化に対する広範な知識と深い教養を能動的・主体的に修得し、グローバル化社会で積極的に活躍するグローバル人材を育成します。講義科目のおよそ半数がネイティヴ教員による英語による授業です。また、初年次教育では、ネイティヴ教員と日本人教員が連携し、高等学校等で学んだ基礎知識を応用しつつ、能動的な学修方法を身につける入門演習を展開しています。また、セメスターごとにネイティヴ教員と日本人教員が相互的に乗り入れるような授業形態を２年次演習等で構築しています。英語力増強については、4 年次卒業まで持続して授業を運営しています。文化研究関連科目も 1 年次から継続的、かつ、主体的に修得できるプログラムとなっています。学生たちが放課後を利用し自主的に交流アクティヴィティを行える施設・設備も整えています。海外研修については、学生にとって馴染み深い英国と北米の二地域を中心に期間は長期・中期・短期を提供し、現地で異文化交流に関する理解を深めることができるようになっています。

４．学修成果と科目との関係

①グローバル化時代に即した総合的、かつ、実践的な英語運用能力を身につけ、海外研修を実地訓練とします。

「Oral Communication Ⅰ～Ⅳ」、「Academic Writing Ⅰ～Ⅳ」、「Reading Ⅰ～Ⅳ」、「英文電子文書作成Ⅰ～Ⅳ」、「Presentation Ⅰ～Ⅳ」、「Professional English Ⅰ～Ⅳ」、「Professional WritingⅠ・Ⅱ」、「交換留学」、「セメスター留学」、「海外大学研修 1・2」、「海外セミナーⅠ・Ⅱ」等

②英語圏文化に対する複眼的かつ体系的な理解を通じて、英語圏の様々な他者の存在を認識しつつ、様々な価値観を倫理的に判断し、異文化に対する敬意と尊ぶ感性を養えます。

「国際英語入門」、「イギリス研究入門」、「イギリス研究」、「アメリカ研究入門」、「アメリカ研究」、「英語圏研究入門」、「英語圏研究」、「イギリス文学 A・B」、「アメリカ文学 A・B」、「英語圏文学 A・B」、「American Social History」、「British Social History」、「History of Cultural ExchangesⅠ・Ⅱ」、「Media LiteracyⅠ・Ⅱ」、「Women’s History」、「Current TopicsⅠ・Ⅱ」、「比較文学論」、「批評理論」、「エンターテインメント文芸」、「演劇文化論」、「音楽文化論」、「映画文化論」、「現代文化論」、「児童文化論」等

③自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開します。また、他者との協力・協働作業通じて、社会性やモラルを身につけ、自ら設定した目標に向かって努力することの重要性を学べます。

「英語圏文化入門演習Ⅰ・Ⅱ」、「英語圏文化演習Ⅰ～Ⅵ」、「国際キャリア・ディベロップメント」、「Critical ReadingⅠ・Ⅱ」、「Intensive WorkshopⅠ・Ⅱ」、「English Project Workshop」等

国際学専攻

≪専門教育課程（学部固有科目）≫

学部固有科目の卒業要件単位数は、84 です。国際学専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。

世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立ち、広く世界の社会・文化・思想・宗教をふまえた英語コミュニケーション能力の育成を行います。あわせて、コンピュータ、時事問題の知識等、ビジネスに応用できる汎用性のある知識・技能を涵養し、英語

運用能力と国際的視野をあわせ持つ、世界に通じる教養人・職業人を養成します。さらに、英語圏に加えて新興国における研修を通し、語学力、職業上の専門知識及び異文化適応力を養成します。

１．履修区分に応じて科目群に分類

①必修科目(52 単位)は、学修目標に従って以下のように分類されます。

Ａ．学士（国際英語学）にふさわしい知見を獲得し、キャリア教育を目的とする科目群
「国際英語入門」、「国際キャリア・ディベロップメント」

Ｂ．基礎的英語運用能力の向上を目的とする科目群
「Oral CommunicationⅠ・Ⅱ」、「Academic WritingⅠ・Ⅱ」、「英文電子文書作成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「発音ワークショップ」、「発音法理論」、「Rhythm & Intonation」、「Grammar & Vocabulary」、「Reading Strategies」、「Paragraph Writing」、「Negotiation」、「Explanation」、「Troubleshooting」、「Workplace English」、「Advanced IT Literacy」、「Presentation Skills」、「Essay Writing」

Ｃ．国際学研究科目群
「国際学入門」、「国際関係論」、「国際ビジネス論Ⅰ」

Ｄ．初年次教育を目的とする科目群
「言語技術と論理的思考」

Ｅ．国際学の体系的理解を深める演習科目群
「国際学演習Ⅰ～Ⅵ」

②選択必修科目(20 単位)は、学修目標に従って以下のように分類されます。

Ａ．国際学研究科目群
「比較文化論」、「異文化理解」、「国際経営学」、「国際開発論」、「世界と日本」、「国際ビジネス論Ⅱ」、「ホスピタリティ論」、「マーケティング論」

Ｂ．英語資格講座科目群
「TOEIC 600」、「TOEIC 700」、「TOEIC 800」、「TOEIC 900」、「TOEIC 1200」、「TOEFL 40」、「TOEFL 60」、「TOEFL 80」

Ｃ．職業体験科目群
「海外業界研究Ⅰ～Ⅵ」、「総合基礎英語」、「総合実践英語」、「論理的思考とプログラミング」、「ICT と言語教育」、「ICT とビジネス」、「海外短期研修Ⅰ～Ⅳ」

③選択科目（12 単位）は、国際学について幅広く学ぶべく多岐にわたり展開しています。

Ａ．国際学専攻開講科目の特徴として、選択科目には主に国際ビジネス関連の科目、また日本語教授法等国際社会で実際に働くことを想定した諸科目を配しています。「航空ビジネス論」、「国内企業インターンシップ」、「国際地域研究入門」、「世界の宗教と思想」、「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」、「日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ」、「交換留学」、「セメスター留学」

Ｂ．教員免許状取得のための選択科目として、「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」、他専攻開講の英語学関連、英米文学関連の科目が履修できます。

Ｃ．その他、他専攻開講科目の一部を履修できます。

２．進路や関心に応じて３つの履修モデルを提示

①交換留学を重視する履修例
2 年次秋学期から 3 年次春学期の ISEP 留学を中心に、国際社会理解関連、国際コミュニケーション関連の諸科目を履修の根幹に据えます。

②職業体験を重視する履修例
国際的に活躍できるビジネス・パーソンを目指す学生が、カリキュラム内で海外職業体験ができます。その体験とビジネス関連の諸科目を履修の根幹に据えます。

③教員免許状取得を目指す学生の履修例

国際学専攻が開講する講義・演習・実習により英語教員としての基礎英語力・教養を身につけます。さらに他専攻が開講する英語学系科目・英文学系科目を選択科目として修得できるため、卒業要件範囲内で教科専門科目が修得可能となっています。

３．国際学専攻固有科目の特色

国際学専攻の英語名 Information Technology & International Studies (ITIS)が表すように、国際学専攻では英語で IT 関連のスキルと国際社会・政治・経済・文化について学修する科目がカリキュラムの根幹を形成しています。国際学専攻のカリキュラムで特徴的なのは、実践的な英語授業や日本語と英語で実施される講義を１年次と２年次に集中的に配置し、学生一人ひとりが自分の興味・関心そして意欲によって自主的な学びに参加できる仕組みを提供していることです。海外研修・海外業界研究については、全専攻の中で最も多様な英語使用環境を体験できる研修・研究を揃えています。英語を母語とする英国・北米・オセアニア諸国、公用語としているシンガポール・インド、そして外国語として学んでいる韓国等で研修を実施します。期間は長期・中期・短期があります。

４．学修成果と科目との関係

①国際学研究科目群

外国語系専攻で一般的な人文系科目以外に、国際関係論、地域研究等の社会科学系科目が多く開講されているため、国際社会で通用する複眼的視点や論理的思考力を身につけることができます。

②英語資格講座科目群

学修目的と到達目標を明確にした英語科目が１年次から２年次にかけて集中的に配置されているため、能率的な英語学修ができます。英語力の到達目標は海外留学の学内選考基準を満たすことです。

③戦略的コミュニケーション科目群

海外を含む学内外での学修や活動を通じて、すべての職業において生涯にわたって有効な、語学力・文章力・ICT スキル・情報収集力・分析力・論理的思考力・異文化適応性・柔軟性・協調性を身につけることができます。

④自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開する科目群

担当教員の学修支援のもと、学生一人ひとりが高い動機付けを維持できる研究テーマを見付け、問題解決に必要な理論と分析方法及び言語表現方法を獲得できます。

学部等名　国際教養学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　国際教養学部国際教養学科の教育目標は、複数の外国語の運用能力を基礎に、言語・歴史・文化・思想・社会に関する学問分野の知見を深め、時々刻々と変化する世界情勢を見極めつつ、能動的に国際協調に貢献しうる国際的教養人を養成することにある。その基礎となる教育研究上の目的は、言語及び国際的教養に関わる学術研究並びにその知見の教育方法の開発である。言語に関わるとは、複数の言語を習得させ、その運用能力を高めることであり、国際教養に関わるとは、広範な分野にわたる多角的学術的課題である。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　国際教養学部国際教養学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（国際教養学）を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ １．２つの言語（フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語のうちいずれか１つ及び英語）を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 ２．国外で学ぶ場合には、世界の人々との交流を深め、多様な文化のありようを客観的に観察・分析することができる。 ３．世界の言語と文化の独自性と普遍性を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。 ４．世界の多様な事象を歴史的観点から把握し、それについて自己の考えを述べることができる。 ５．現代社会の思想的課題を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。 ６．国際社会が直面する課題を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。 ７．探究すべきテーマを自ら設定して調査を行い、自律的・批判的に考察し、創造的な研究成果を提示できる。 ８．さまざまな人々と交流し、相互の視点を理解し、社会の中で他者と協調して行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　国際教養学部国際教養学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。 〈カリキュラムの構成〉 　本学部のカリキュラムは、全学共通科目と学部固有科目から成り立っています。全学共通科目 36 単位、学部固有科目 78 単位に加えて、履修者の関心と目標に応じて全学共通科目と学部固有科目の両者から自由に選択できるフロート単位が 10 単位設けられ、合計 124 単位が卒業所要単位となっています。 【全学共通科目の目標】 　全学共通科目では、幅広い視野と多面的な思考力を養い、専門分野にとらわれない総合的な知を身につけることを目指しています。科目の構成については〈全学共通科目の教育課程編成の方針〉を参照のこと。 【学部固有科目の特色】 　学部固有科目のカリキュラムの特色は、一つ目には、入学時にフランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語の 5 言語の中から 1 言語を選択し、英語とあわせ、集中的に学修することにあります。二つ目に、4 つの分野（言語文化、歴史文化、思想文化、国際社会）を柱としていることにあります。さらに、この 4 分野にわたって設けられた多様な科目の核として演習を配置しています。演習は、2 年次から 4 年次まで必修とし、4

年次には卒業研究を完成させることが求められており、それを通して国際的教養人にふさわしい情報収集力、分析力、思考力、発信力を養成します。

【科目区分】

学部固有科目の区分の仕方は、二つあります。一つ目は段階的な区分で、基礎科目・基幹科目・展開科目と段階的に科目を配置しています。二つ目の区分は分野に基づくもので、言語文化系科目群、歴史文化系科目群、思想文化系科目群、国際社会系科目群の4つの科目群から成り立っています。これら学部固有科目全体の中心に位置するのが演習科目です。

なお展開科目には、キャリア形成支援科目、海外留学に関わる科目も含まれています。

【特徴的な科目・学修方法・学修過程】

①5つの選択言語の運用能力を確実なものとするため、「発音」「会話」「語彙」「文法」「情報処理」「講読」「作文」「語学検定対策」などのクラスにおいて、段階的に学修をすすめます。コミュニケーションに重点を置いたクラスでは、少人数による双方向的な授業運営を行い、特に「発音」クラスは履修者数の上限（15名以内）を定めています。

②英語の高度な運用能力を確実なものとするため、イングリッシュ・ワークショップ（リスニングとスピーキングに重点を置いた授業）、イングリッシュ・スタディーズ（リーディングとライティングに重点を置いた授業）の各クラスを少人数編成にしています（履修者数15名程度）。英語によるリサーチと発表を通じて、高度な内容を英語で発信する能力を磨きます。

③5つの選択言語の運用能力を向上させ、各文化圏の理解を実地で深めるための機会として、2年次（または3年次）秋学期に各言語圏の大学への留学プログラムを設けています。この留学プログラムは「海外課題研究」という科目として単位認定されます。この科目の履修を強く推奨しています。

④1年次において国際教養学部での学修の全体像を見渡し、以後の学修の方向づけができるよう、「国際教養学入門A(言語)・B(歴史)・C(思想)・D(国際社会)」を設け、4科目すべてを必修としています。

⑤国際教養学部における学修の成果を踏まえ、的確に自らの適性を把握し、卒業後のキャリアを展望させることを目的とした「キャリア・ディベロップメント」という科目を3年次春学期に配置しています。

⑥2年次から4年次までの学修の核となる演習では、4年次秋学期に「卒業研究」を完成させることを目標に、各自がテーマを定め、調査、発表、論文執筆の実際を学びます。その際、少人数クラスにおいて、教員の綿密な指導のもと、各自が主体的に学修に取り組み、積極的に議論に参加することが求められます。

⑦演習は、言語文化系、歴史文化系、思想文化系、国際社会系の4つの系にわたってクラスを開設しており、履修者は2年次以降、いずれかの系のクラスに属することで、それぞれの系の科目を中核に据えて学部全体のカリキュラムを体系的に学修することができます。

⑧語学科目の学修成果は、授業への参加度、課題の成果、口頭・筆記の試験をもとに総合的に評価します。講義科目の学修成果は、レポート、試験、又は授業への参加度で評価します。演習科目においては、授業への参加度、口頭発表、レポートを総合して学修成果を評価しますが、演習Ⅵにおいては「卒業研究」の成果の比重が大きくなります。

学部等名　国際学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　国際学部は、グローバル社会における複雑な課題・問題に取り組んでいくために、「人」の行動や「社会」の動きを様々な学問領域から研究・学修し、複言語能力の涵養に努め、国際社会が直面する諸課題を多面的に追究し、解決に取り組むことができる知識・能力を身につけた人材を養成する。また、国際学部が設置する国際学科及び言語文化学科の人材養成の目的は、次のとおりとする。 （１）　国際学科は、英語を中心とした複言語能力を涵養するとともに、国際人間学専攻、国際政治学専攻、国際経済学専攻、Global Liberal Studies 専攻を置き、各専攻の視座から人文学、社会科学等の多面的な学問領域を教授することによって、国際社会が直面する様々な課題・問題に取り組める知識・能力を身に付けさせ、世界で活躍できるグローバル人材を育成する。国際社会における政治・経済の動向やそこで行われるビジネスの内容などに関する高度な理解が求められる中、国際社会の的確な現状理解をベースに、多様な人々と円滑なコミュニケーションができる能力を有し、複雑な諸課題に対応できる高度な専門的知見と技能を有する人材を養成する。 （２）　言語文化学科は、言語・文化の多様性と普遍性の理解を深めることをその学びの中心とし、複言語・複文化学専攻と英米学専攻の二つの研究コースにおいて、中京大学の建学の精神に謳われる「学術を通した人格陶冶」を実現すること、真のグローバル精神を涵養することを目的とする。特に、言語・文化のスペシャリストになるために必要な高度な専門的知識と教養を身につけること、及びジェネラリストになるために必要な広範で深遠な知識と教養を身につけることを目的とする。多様な文化的価値観が混在する社会のなかで、複数の言語やその背景となる文化的社会的知識を用いて、人々との「共生」を導くことができ、言語や文化という人間活動の根本を探求しながら、現代社会の諸問題を解決する努力を怠らず、社会の様々な要請にも言語文化の知見を活かして挑み続けることができる自律的学習者、並びに言語研究・文学研究・文化研究等の専門家を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）

国際学部国際学科及び言語文化学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を習得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、審査を受けて合格に達した者に対して、学士（国際学）の学位を授与します。

以下に達成の基準である学修成果を示します。それらは、国際学部に共通する基準、各学科の基準、そして、各専攻の基準により構成されます。

＜学修成果（教育目標）＞

●国際学部共通の基準

1．学究的な思考方法に基づいて、理論的な考察と学際的な研究を深め、その知識を国際社会で活用できる能力を有している。

2．国際社会の諸課題に取り組むさまざまな組織の中で、チームワークを重視するとともにリーダーシップを発揮できるマネジメント能力を有している。

●国際学科共通の基準

1．英語に関する高い運用能力を持ち、国際社会の多様性を認識して相互のコミュニケーションを円滑に行うことができる。

2．複言語能力の涵養に努め、多種多様な言語・文化を持つ人々と交流できる。

3．グローバリゼーションの進展によって多様化・複雑化する国際社会の諸課題について、対応するために必要な人文科学・社会科学を多面的に学修し、専門的知見や技能を活用できる。

●国際学科各専攻の基準

≪哲学・人間学専攻≫

1．哲学や思想、人間学、歴史学に関する重要文献や資料を正確に読解するために必要な論理的思考力と日本語力、語学力を身に付けている。

2．グローバル化、科学技術の進展によって深刻化する現代の国際社会の重要課題を主体的に考察しつつ、人間や社会のあり方を哲学的・歴史学的な観点から批判的に問い直すことができる。

3．東西諸文化の差異や特殊性とその中での日本の位置を、思想や歴史の視点から理解するとともに、人類に共通するグローバルな普遍性を探求する、開かれた対話的な態度を身に付けている。

≪国際政治学専攻≫

1．国際社会の諸問題を理解できるように、国際政治学・国際開発学の基本的な知識を有している。

2．世界の課題や問題の原因を見出し、それらを解決するための方策をグローバルな視野で考え、チームの中で主体的に行動することができる。

3．グローバリゼーションのなかで問題解決に必要となる適切な情報を収集し、論理的に議論することができる。

≪国際経済学専攻≫

1．グローバル化が進む国際社会の中で活動する企業、消費者、政府といった様々な主体の行動や相互依存関係やそれらが社会に及ぼす効果を定性的かつ定量的に分析し、グローバル社会における経済主体間で生じる課題・問題を解決できる能力を身に付けている。

2．グローバル社会の中で活動する企業の経営管理や経営戦略について、理論や数量的スキルを用いて定性的かつ定量的に分析し、企業が抱える課題・問題を解決できる能力を身に付けている。

3．多様な文化的背景を持った人々との開かれた対話を通じ、組織運営を行う能力を有している。

≪Global Liberal Studies 専攻≫

1．Students will have attained a global perspective on contemporary issues.
現代の諸問題についてグローバルな視点を獲得している。

２．Students will be able to engage, both orally and in writing, in the critical analysis ofglobal issues.
グローバルな問題の批判的分析に会話でも論文でも取り組むことができる。
３．Students will have achieved a high level of proficiency in Japanese.
日本語の高度なプロフィシェンシー（熟達度、運用能力）に達している。
●言語文化学科共通の基準
１．「言語文化の専門家」という立場から、社会における様々な事例に対し、自らの意見を世界に向けて発信することができる。
２．言語文化に関する広範で深遠な知識と教養を活かし、その時々の社会的文化的文脈に応じて、しなやかに対応することができる。
３．英語やその他の外国語を用いて国際社会の様々な場面に適切に対応できる外国語運用能力を有している。
●言語文化学科各専攻の基準
≪複言語・複文化学専攻≫
１．複言語・複文化能力の向上に努め、多種多様な言語・文化を持つ人々と交流できる。
２．世界の様々な言語・文化の多様性と普遍性を深く認識し、母語・母文化・アイデンティティを相対的に捉えることができる。
３．多種多様な言語・文化を持つ世界の人々との協働を通じて、多様なイノベーションの創出・問題解決・情報共有・相互理解を促進するファシリテーション能力を有している。
≪英米学専攻≫
１．リンガ・フランカとしての英語のあり方を前提として、実際的に英語を使用し、広く多様な国際コミュニケーションを円滑に行うことができる。
２．英語という言語に対する体系的理解を深め、英語教育者・実務翻訳家・通訳者等になるために必要な専門的能力を身に付けている。
３．単に英語圏の文化や文学・歴史のみならず、多くの英語圏の国々と日本の文化や文学・歴史との比較も含めて学修し、英語圏文学・文化の多様性と、ナラティヴという切り口から国際社会のあり方や成り立ちを複眼的かつ体系的に理解できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）

（概要）
国際学部は、教育研究上の目的及び学位授与方針に基づいて教育課程を編成し、効果的な教育方法を実践します。
本学部では、グローバル社会における複雑な課題・問題に取り組んでいくために必要となる複言語能力の涵養に努め、「人」の行動や「社会」の動きを様々な学問領域から学修します。それを実現するために、以下のとおりの教育課程を編成します。
＜専門教育課程の構成（国際学部共通事項）＞
１．学部の共通言語を日本語と英語とし、日本語を母語とする学生には 1 年次第 2 セメスターにおいて英語圏留学を必修とする。また、1 年次から 2 年次にかけて、英語の運用能力だけでなく、英語を通して、論文作成・ディスカッション技能・批判的思考力・対話力などのアカデミック・スキルズを習得する（CEFR 基準で C1 程度）。
２．両学科・全専攻の専修科目に英語のみで授業を行う科目を設置し、英語力を強化する。
３．2 年次において、フランス語・ドイツ語・スペイン語・ロシア語・中国語・イタリア語・韓国語の 7 つの言語から 1 言語を選択し、第 2 外国語として集中的に習得する（CEFR 基準で A2-B1 程度）。
４．学生自身が専門とする科目の履修だけに留まらず、学部内にあるすべての専攻・専修の開講科目も履修できるリベラルアーツ教育を実践する。これを通じて、特定分野の専門性の追究だけでなく、幅広く多岐にわたる学際的な学修を可能にする。
５．自身が選択した第 1 メジャーに加えて、他の専攻（専修）の体系的な履修をすすめることにより、ダブルメジャー（2 つの専攻（専修）のゼミまで履修）あるいは、メジャー＋マイナー（専攻（専修）の講義科目を 20 単位以上履修）として、2 つの専攻（専

修）における学修の高い次元での両立ができるものとする。
６．社会的・職業的自立に関する指導の柱とすべく、学部共通基礎の必修科目として第 3 セメスターに「キャリア・デザイン」を置く。自らの適性を探るとともに、現代社会における職業・職場の多様な実態と可能性に触れ、グローバル化が進展する現代社会において、働くことと生きることに関する視野を広げる。
７．学部固有科目の年次配当と教育のねらいを下表のとおりとする。各段階を経て着実に学びのスパイラルアップを図ることができるものとする。
＜国際学科の専門教育課程の構成＞
１．国際学科に以下の専攻・専修を置き、それぞれにおいて専攻基礎科目、専修基礎科目、専修科目、選択科目、ゼミ（演習）を配置し、段階的で体系的な学びを実現する。
・国際人間学専攻（哲学・人間学専修、グローバル・ヒストリー専修）
・国際政治学専攻（国際政治学専修、国際開発学専修）
・国際経済学専攻（国際経済学専修、国際ビジネス学専修）
・Global Liberal Studies 専攻（Global Liberal Studies 専修）
２．日本語を母語としない学生（Global Liberal Studies 専攻の学生）は、1 年次から 3 年次にかけて日本語科目の段階的な履修をすすめ、高度な日本語能力を習得する（JF 日本語教育スタンダード B2/日本語能力試験 N1 程度）。また、Global Liberal Studies 専攻の専門教育の授業は、すべて英語で行う。
３．ゼミ（卒業研究）を必修科目として置く。第 1 メジャーとする専門分野の学びの集大成である卒業論文（卒業研究）を完成させる。
【国際人間学専攻】
１．哲学・人間学専修、グローバル・ヒストリー専修をおき、2 年次にそれぞれの専修に配属され、3 年次に各分野のゼミ（演習）に配属される。
２．3 年次のゼミ（演習）での専門的な学びに基づき、4 年次にその専門性を活かした卒業研究を完成させる。
[哲学・人間学専修]
１．1・2 年次に「現代哲学概論」「現代人間学概論」「Introduction to Philosophy and Humanities」「哲学・人間学入門Ⅰ・Ⅱ」「比較思想概論」（専修必修科目）を履修することを通じて哲学・人間学に関する基礎的な素養を身に付け、3・4 年次には「心と AI の哲学」「Comparative Thought」など専修選択科目を履修することを通じて、哲学・人間学に関する幅広い知識と教養を身に付ける。
２．3 年次にゼミ（演習）に分かれ、卒業研究に向けて各教員の研究分野に基づいた専門的な学習を行う。4 年次には卒業研究を完成させる。
[グローバル・ヒストリー専修]
１．1・2 年次で「グローバル・ヒストリー概論Ⅰ・Ⅱ」を軸に、その他の関連基礎科目を通じて、長い歴史・広い空間を意識したグローバル・ヒストリーの考え方を身に付ける。
２．3 年次以降は、「History of Modern Japan」や「複数性のアジア史」などの科目で、テーマや時代を特化した学びにより専門的な知識を深め、4 年次での卒業研究に結実させる。
【国際政治学専攻】
1 年次向けには自専攻基礎科目として、国際政治学あるいは国際開発学を学ぶに当たって必要な基礎知識を習得するために、「国際関係論」と「国際開発学入門」を設置する。
[国際政治学専修]
１．2 年次においては 2 単位の自専修基礎科目として「国際関係史」「Introduction to International Politics」を設置し、さらなる基礎知識の習得を促す。さらに 4 単位の自専修科目として「国際政治学」「国際政治史」「日本政治外交史」を設け、より高度な学修を進めることで、3 年次のゼミ（演習）と 4 年次のゼミ（卒業研究）への橋渡しとする。また、「International Politics」では英語で授業を行い、専門性の高い英語力の涵養を図る。
２．3 年次では「国際政治」「国際政治史」「日本外交史」のいずれかの分野に関するゼミ

（演習）で専門性を高めるとともに、4年次では各ゼミ（卒業研究）の教員が卒業研究指導を行って卒業論文を完成させる。

［国際開発学専修］

１．2 年次においては 2 単位の自専修基礎科目として「国際協力論」「International Development Studies Ⅰ」を設置し、さらなる基礎知識の習得を促す。さらに4単位の自専修科目として「社会開発論」「グローバル・ガバナンス論」「持続可能な開発論」を設け、より高度な学修を進めることで、3年次のゼミ（演習）と4年次の卒業研究への橋渡しとする。また、「International Development Studies Ⅱ」では英語で授業を行い、専門性の高い英語力の涵養を図る。

２．3年次では「社会開発論」「グローバル・ガバナンス論」「持続可能な開発論」のいずれかの分野に関するゼミ（演習）で専門性を高めるとともに、4年次では各ゼミ（卒業研究）の教員が卒業研究指導を行って卒業論文を完成させる。

【国際経済学専攻】

１．経済学・経営学の主たる領域において、諸問題を解決するために必要な知識や思考能力を身に付けることを目的とした専攻基礎科目、専修基礎科目、専修科目、選択科目、ゼミ（演習、卒業研究）を配置する。

２．専攻基礎科目として、経済学及び経営学の基礎的な知識や思考能力を身に付けることを目的とした科目を配置する。

［国際経済学専修］

１．専修基礎科目、専修科目として、経済学の主たる領域であるマクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学の 3 分野について、経済における諸問題を解決するために必要な知識や思考能力を身に付けることを目的とした科目を配置する。

２．選択科目として、グローバル経済で起こっていることを深く理解し、問題解決能力を身に付けるための科目を配置する。

３．ゼミ（演習、卒業研究）では、経済学に関わる分野の学びを深め、その集大成である卒業研究を完成させる。

［国際ビジネス学専修］

１．専修基礎科目、専修科目として、経営学の主たる領域である組織・人材マネジメント、会計・ファイナンス、戦略・マーケティングの 3 分野について、ビジネスにおける諸問題を解決するために必要な知識や思考能力を身に付けることを目的とした科目を配置する。

２．選択科目として、グローバルビジネスで起こっていることを深く理解し、問題解決能力を身に付けるための科目を配置する。

３．ゼミ（演習、卒業研究）では、経営学に関わる分野の学びを深め、その集大成である卒業研究を完成させる。

＜言語文化学科の専門教育課程の構成＞

１．言語文化学科に以下の専攻・専修を置き、それぞれにおいて専攻基礎科目、専修基礎科目、専修科目、選択科目、ゼミ（演習）を配置し、段階的で体系的な学びを実現する。

・複言語・複文化学専攻（言語学専修、異文化コミュニケーション専修）

・英米学専攻（英語学・英語教育専修、英語圏文学・文化専修）

２．ゼミ（卒業研究）を必修科目として置く。第 1 メジャーとする専門分野の学びの集大成である卒業論文（卒業研究）を完成させる。

【複言語・複文化学専攻】

１．1年次に専攻基礎科目として「ことばの仕組み」「異文化理解概論」を履修する。

２．複言語・複文化能力の向上のため、世界の言語プログラム（第二外国語）では、2年次に基礎科目を、3年次に応用科目を履修し、第二外国語を発展的に学ぶ Plurilingual Program の修了を目指すこととする。

［言語学専修］

人間言語に見られる諸特性についての幅広い知識と言語学の基本的な考え方を習得した上で、言語の構造、音声、獲得などの側面について深く理解する。この目標を達成するため、

2年次に基礎科目として「理論言語学入門」「Introduction to Linguistics」、専修科目として「統語と音韻の境界領域」「理論言語学」「比較統語論」「Workshop in Linguistic Research」を履修する。3年次にゼミ（演習）として、統語と音韻の境界領域、理論言語学、比較統語論のいずれかの分野を履修する。4年次には各ゼミ（卒業研究）教員の指導のもとで集大成として卒業研究を完成させる。

[異文化コミュニケーション専修]

世界の言語・文化について、歴史的、社会的背景についての幅広い教養を習得した上で、二言語以上の外国語運用能力を活用しながら、異文化間のコミュニケーションの多様性について深く理解する。この目標を達成するため、2 年次に基礎科目として「Introduction to Theory of Culture」「コミュニケーション論概論」を履修する。さらに選択科目として、複言語複文化、文学、多文化共生と宗教、映画とメディア、社会言語学、芸術と宗教、ポピュラー文化に関する分野から選んで履修する。3年次にはゼミ（演習）として、外国語学習、比較文学、社会言語学、西洋精神文化、多文化共生、比較文化、表象文化のいずれかの分野を履修する。4年次には各ゼミ（卒業研究）教員の指導のもとで集大成として卒業研究を完成させる。

【英米学専攻】

１．リンガ・フランカとして、実際的に英語を使用して広く多様な国際コミュニケーション能力を習得する。

２．英語圏の言語や社会・文化について広範な知識を獲得するとともに、それらについて学際的見地から批判的に研究し理解する。

[英語圏文学・文化専修]

多様な英語圏の文化や文学・歴史について、日本の文化や文学・歴史との比較も含めて学修し、国際社会という背景において、物語研究という観点から、英語圏文学・文化の多様性について複眼的かつ体系的に理解する。

[英語学・英語教育専修]

英語という言語に対する体系的理解を深め、英語教育者、実務翻訳家、通訳者等になるために必要な専門的能力を身に付ける。

＜授業方法（国際学部共通事項）＞

国際学部における教育効果を最大のものとするために、以下のとおりの方法で授業を行う。

１．インターアクティブな語学の授業やゼミ、専門分野の教員による専門性の高い講義と学生主体のアクティブ・ラーニングを織り交ぜた授業を行うこととする。

２．「世界の言語（英語・第二外国語・日本語）」と 1 セメスター4 単位設定の講義科目（専修科目・専修選択科目）は、同一科目を 1 週のうちに間隔をあけて複数回授業を行う仕組みとし、学生の記憶が鮮明なうちに次なる内容を教授して授業の密度そのものを上げる工夫をする。

３．英語と第二外国語の授業は、ひとつの科目を原則として 3 名の教員が 1 コマずつ順繰りに受け持つリレー形式で行うこととし、その中には必ずネイティブスピーカーを含み、コミュニケーション能力の向上を重視した授業展開を実践する。

４．3年次に開講するゼミは2限連続で行うこととし、時間をかけた発表や討議ができるようにする。

５．各科目においては、学びの進捗確認の観点と、常に緊張感をもって授業に臨むことを求める観点から、適宜中間的な確認テストを行うこととする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）

国際学部は、「中京大学の建学の精神」「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的」に基づき、以下に掲げる人を広く求めています。

≪求める人材像≫

１．世界共通語としての英語を習得し、グローバル社会での活躍を強く希望する人
２．世界の多様な言語や文化、国際社会の仕組みや生起する諸問題に強い関心を持つ人
３．学生生活を通じて規範意識とリーダーシップ精神を身につけ、多様な背景をもつ人々との協働を通じて、世界市民として社会の持続的発展に貢献する意志を持つ人
４．1 年次秋学期のセメスター留学に際して、種々の困難に立ち向かい、知り合うことのできた世界の仲間と協調して完遂する、強い意志と柔軟性を持つ人
５．これまでの生活の中で、学習、技術の習得、文化、芸術、スポーツなどの諸活動に勤しみ、ベストを尽くして成果を上げている人

＜入学者に求める知識・技能＞

１．大学での学習に必要な幅広い基礎学力を有していること。
２．英語を「読む」「書く」「聞く」「話す」のすべてにおいて、発展的学習の素地となる運用能力を有していること。（入学前の英語運用能力を測る目安として、CEFR の B1 レベル、例えば、実用英語技能検定（英検）2 級、TOEFL42 点以上などを参考にしてください。）
３．深い思考力を支える文章読解力を有していること。
４．海外諸国や日本の文化、社会制度等について、学究をすすめる基盤知識を有していること。
５．情報技術や情報社会に対応していくための基本的な知識と技術、倫理観を有していること。

＜入学者に求める思考力・判断力・表現力＞

１．物事を建設的かつ客観的に見つめる能力を有していること。
２．論点を整理し、筋道をたてて考える能力を有していること。
３．広い視野を持ち、物事の体系的な理解ができること。
４．自らの考えを適切な手法と表現を用いて他者への伝達ができること。
５．人として正しい倫理観と適切な責任感を有していること。

＜入学者に求める主体性・多様性・協働性＞

１．主体的かつ自律的に自らを成長させられること。
２．組織における自らの役割を自覚し、責任をもって果たせること。
３．異なる文化や価値観を柔軟に受けとめ、協調できること。
４．他者への積極的な働きかけと良好なコミュニケーションを図れること。
５．他者の意見に耳を傾け、良いことは取り入れる態度があること。
６．場面に適応したリーダーシップを発揮し、周囲によい影響を与えられること。
７．地域や社会に貢献しようとする態度を有していること。

なお、入学者選抜においては、様々な入試方式を採用します。具体的にはそれぞれの試験方式に定員を割り当て、定員の比重に応じて多彩かつ個性的な人材が集うことを目指します。

各専攻では、以下の能力と態度を有する人を受け入れます。

【国際人間学専攻】

高度な英語運用能力を基盤とし、哲学や思想、歴史をグローバルな観点から学ぶことに強い関心を持ち、それらの学修に必要な基礎的知識と、透徹した人間理解に至ろうとする高い志を有していること。

【国際政治学専攻】

高度な英語運用能力を基盤とし、国際社会の諸課題に高い関心を持ち、国際政治や国際開発の専門的な学修に必要な基礎知識と自発的な探究に取り組む意欲を有していること。

【国際経済学専攻】
高度な英語運用能力を基盤とし、グローバル化が進む国際社会における経済や経営に対して強い関心を持つとともに、それらに関する学修をすすめる上での基盤となる知識と強い意欲を有していること。
【GLS 専攻】
Applicants must have high English proficiency, strong interest in the liberal arts and their relevance to global issues, and have the motivation to pursue studies related to this field.
高度な英語運用能力を活かし、国際問題との関連において広範な教養を蓄えるとともに高い関心を持ち、関連分野における研究に強い意欲を有していること。
【複言語・複文化学専攻】
世界の多様な言語と文化に高い関心を持ち、それらの学修に必要な基礎知識と、英語及びそれ以外の外国語を含めた複言語・複文化能力を活用しながら専門研究に取り組む意欲を有していること。
【英米学専攻】
広く英語圏の国々と日本の言語や文化について関心を持ち、その言語体系や文化の多様性に対する基礎知識と、広く英語圏の社会や文化の成り立ちについて、複眼的に学修しようとする意欲を有していること。

学部等名　心理学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　心理学部心理学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、幅広い心理学の基礎知識を修得した上で、現代心理学の主要領域である、実験心理学、応用心理学、臨床心理学、発達心理学に関する専門知識と深い思考力を身につけた、社会に貢献できる人材の養成にある。特に、実験による科学的・客観的な心の分析、採用人事や社員教育、交通や作業上の安全性の追求、心の問題への的確なアセスメントと効果的な援助、人が生まれてから死ぬまでの心の発達の探求など、心理学の専門家として社会が求める人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　心理学部は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（心理学）を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ １．心理学における基本的な考え方や理論を理解し、その知見を踏まえて自ら学び続けることができる。 ２．心理学の主要領域に関する知見に基づき、社会に対する誠実な態度をもって、人間の心理と行動の基本的なメカニズム、文化差や個人差といった人間の多様性、あるいはその生涯過程等を理解し、実践に生かす力を身につけている。 ３．実験・観察・面接等の科学的論理性と倫理的配慮を備えたデータ収集法及び適切な情報処理技術による分析法を修得し、心理学に近接する関連領域からの学際的な知見も踏まえて、状況や事態を冷静かつ客観的に評価できる。 ４．現実社会で直面する諸問題に対し、自他の心理と行動を的確にモニターしながら、熱意と行動力をもって積極的に意見を述べ、自らが学んだ分野の独自性に立脚した課題解決を行うことができる。 ５．大学卒業後、各々が活躍する場において社会貢献を意欲的に果たすことができるように、心理学的見地から一つひとつの問題に着眼する力、相手の意見に耳を傾ける力及び相手に語り返す力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） ＜カリキュラム全体の方針及び構成＞ 　心理学部の教育課程は、幅広い視野をもって総合的な知を身につける全学共通科目と、心理学の専門的な知識及び技能をもって社会に貢献できる人材を養成する学部固有科目で構成する。卒業要件単位は全体で 124 単位であり、そのうち専門教育課程を構成する学部固有科目の卒業要件単位は 72 単位である。また、履修者の関心に応じて全学共通科目と学部固有科目の両方から自由に選択できるフロート単位が 8 単位設けられている。 ＜専門教育課程の概要＞ 　心理学部は、実験心理学領域、応用心理学領域、臨床心理学領域、発達心理学領域という 4 つの領域で構成されている。専門教育課程では、1 年次は心理学全般を学ぶ概論的な科目と導入教育的な科目を中心とし、2 年次に先のビジョンを持てるような各領域の概論と方法論について学ぶ。3 年次にはゼミに配属されて専門の知識と技能を身につけ、4 年次にはそれらを使いこなして卒業論文を仕上げることで必要な能力を実際に生かすことができるようになる。 ＜専門教育課程の方針及び構成＞ 　心理学部の専門教育課程は、学位授与の方針に基づく以下の 6 つの方針に従って学部固有科目により構成される。

１．心理学とはいかなる学問であるのか理解し、「学び方」を学ぶことができる初年次教育から、2年次以降に専門的な知識及び技能を徐々に積み上げていく構成とする。
２．人間の心理、行動、多様性、生涯過程に対する理解を促進する専門科目を構成する。講義科目による多様な知識の蓄積に加え、それらの知識を実践に生かす力の獲得を目指した実習科目を充実させる。また、国際社会においても知識及び実践力を発揮できるよう、英文を講読する演習科目や海外演習等を配置する。
３．心理学のデータ収集法及び情報処理技術を、倫理的な態度で適切に扱うことができるように方法論に関する科目も充実させる。また、心理学の方法論を幅広く他分野とも結びつけて使えるよう、ゼミ配属後も分野を横断した科目選択を可能とする（実習科目も含む）。
４．学修成果を現実社会の様々な問題の解決に生かせるよう、個人又はグループで課題に取り組むことを主とする演習形式の科目を配置するほか、自らの問題意識に沿ってテーマを策定し、計画的にデータを収集・分析して成果を論文にまとめる卒業研究を必修とする。
５．心理学の専門知識・技能を卒業後の活動や社会貢献と関連づけられるよう、ゼミ配属前からキャリア関連の科目を配置する。また、心理学を修めた者として意欲的に社会と関われる人材を育てるため、カウンセリング関連の科目を始め、どの領域においても対話力の向上を重視する。
６．公認心理師の受験資格を得られるための、必要な講義及び演習・実習科目を設置し、心理学に基づく専門職業人としての確かな基礎的素養を身に付けることを可能とする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）
　心理学部では、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」を尊重し、以下に示す知識や技能、知的好奇心を有し、それらを土台に学びを昇華させる意欲のある人を広く求めています。
＜入学者に求める知識・技能・意欲・態度＞
〔知識・技能〕
　心理学部での学びは、「人の心の働きを科学的に探究し、それを実際の社会問題の解決に役立てること」です。多様な価値観を持つ人間を理解するとともに、社会が抱える問題を考えるためには、高等学校段階において、その基本となる教科・知識を幅広く学習しておくことが大切です。
　特に、心理学部での学びと関連して、次のような学習をすすめておくことが望まれます。
・心理学は科学（science）です。実験等で得られたデータの数的・統計的処理を行うことから、ある程度の数学的な能力が必要となります。
・先端の研究内容を学んだり、参考にしたりするためには、外国語で書かれた学術論文を読み解く必要があります。そのためには、継続的に英語の学習をすすめておくことが求められます。
・心理学には、人と関わりを持ち、対話を通じて他者をより良い方向へと導くカウンセリング等の分野があり、高度なコミュニケーション能力が求められます。そのためには、読書を通じて幅広い教養を身につけるとともに、国語力や国語表現等の学習を確実にすすめておくとよいでしょう。
〔意欲・態度〕
　心理学部で学ぶにあたっては、データの処理・分析を通して、科学的結論を得る力だけではなく、相手を受け入れつつ導くことができる心の広さ、懐の深さも求められます。これらは、心理学特有の面接技法や心理テストの実施能力を身につけることで、ある程度は入学後に伸ばすことができる素養でもあります。しかしながら、それにもまして必要とされるのは、人間の行動や人間そのものへの興味や旺盛な知的好奇心、学習を粘り強く続ける力です。

上記のことを踏まえて、大学での充実した学びを達成するために、以下のような入学希望者を求めます。
・人間の行動に興味があり、そのメカニズムを知りたいという知的好奇心があること。
・柔軟な思考力や想像力を持ち、主体的に学習する意欲を持っていること。
・実験や観察といった研究法を通した、科学的な分析に興味が持てること。

学部等名　現代社会学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　現代社会学部現代社会学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、現代社会に生起する諸課題に果敢に挑戦し、その克服のために尽力する人材の養成にある。この目的を達成するために、社会学を軸に教育学、心理学、社会福祉学、文化人類学等が連携して、社会学専攻、コミュニティ学専攻、社会福祉学専攻及び国際文化専攻の 4 専攻を柱として配し、教育及び研究に取り組む。各専攻に基づいて体系的に修得する専門的知識とそれを背景とした調査力・実践力・表現力を備え、社会の一員として活躍するだけでなく、現代社会の構造を理解し、目指すべき社会を構想する人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　現代社会学部現代社会学科は、定められた課程を修め、厳格な成績評価を経て、以下の学修成果をあげたと判定される者に対して学士（社会学）を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ １．社会に生起する諸現象に関心を持ち、諸現象の中から社会的な問題を発見し、分析し、適切なアプローチ方法を構築し、実践していくことができる。 ２．社会を形成する人びとの営みを「市民」という視点で捉えるとともに、社会の本質的かつ基礎的な理論を踏まえて、理解し、分析することができる。 ３．現代社会の成り立ちと変化・変動を、歴史的・世界的な枠組みから捉え、近代化とポスト近代化、グローバル化とローカリティ、少子化人口減少社会と超高齢化、格差と社会的孤立、価値規範の多様化と生きづらさ等の社会現象を、それぞれの現象の関連性と異質性において分析、考察することができる。 ４．「現場主義」を重視することにより、実証的な方法と行動力を身につけ、データの収集とその精査、分析を通し、事実への認識力を向上させることができる。 ５．混迷する社会に対し、21 世紀を構想するビジョンを持ち、問題の解決に向けた具体的な提案をし、実行に移す自信を醸成することができる。 ６．「フィールドワーク」「現場体験」「プレゼンテーション」等を通して、他者と協働することにより、チームワークの重要性を認識することができるようになる。すなわち他者との協働を円滑にしていく力を醸成することができ、そのことにより他者とのコミュニケーション能力を身につけることができる。 　以上の学部学科全体の学修成果に加えて、各専攻において以下のような学修成果を定めています。 ［社会学専攻］ １．社会学的想像力を身につけている。社会学的想像力によって、従来の常識や枠組にとらわれずに、できるかぎり全体社会とのつながりのなかで、日常世界を理解できるようになる。 ２．「新しい社会」の仕組みを構想できる力を身につけている。社会の仕組みをどのように変えていけばよいのか、構想・デザインできるようになる。 ３．コミュニケーション能力を身につけている。諸問題の根本と解決策を、多くの人と共有するために、わかりやすく書き、話すことができるようになる。伝達方法が多様化する中で、IT やメディアも活用できる。 ［コミュニティ学専攻］ １．コミュニティの現場で調べ、考え、実践する力を身につけている。さまざまなコミュニティにおける人のつながりの実際を調べ、その意味を理解し、説明できる力を身につけている。 ２．社会学、心理学の両方の学びを通して、実践的な知を身につけている。「集団」に注目する社会学と「個人」に注目する心理学とをともに学び、実践的な知識を養えている。

３．実社会に役立つ力を身につけている。「現場」での経験を重視し、実社会で役に立つ力を身につけている。そのために重要なコミュケーション力、すなわち、調査現場での協調性、情報収集能力、分析力、プレゼンテーション能力等を身につけている。

［社会福祉学専攻］

１．フィールドワークを重視し、理論と実践を融合する力を身につけている。実習、演習教育を主眼とし、福祉専門職としての力を身につけている。社会福祉士国家資格を取得するために必要な力を有している。

２．共生のための新しいつながりを創る、主体性を身につけている。地域という現場において、つながりあい、共同する関係を創造する力を身につけている。

３．社会に貢献するチームワーク力を身につけている。仕事を遂行していくためのチームリーダー力やチームワークを推進していくためのフォローアップ力を身につけている。

［国際文化専攻］

１．文化人類学を基礎とし、人間の営みを「文化」の観点から理解できる。「文化」という営みを中心に捉えつつ、新たなつながりを創出できる。

２．モノへのまなざしを身につけることができる。モノの先にあるひとの暮らしを理解できる。

３．フィールドワークを通して、現代社会の諸問題を具体的に理解し、説明できる。さまざまな文化をつなぐ事ができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）

現代社会学部現代社会学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していきます。教育課程は、一般教養科目である全学共通科目と専門教育科目である学部（専攻）固有科目から構成されます。全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨きます。それとあわせて初年次教育では、専門課程の基礎としての知識・技能の養成及びキャリア教育の導入を行います。専門課程では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するための科目編成をしています。成績評価については、各科目の特性に照らして適切と考えられる多面的な方法をシラバスに明示し、それを厳格に適用します。

＜専門教育科目（学部固有科目）の全体構成とキーコンセプト＞

現代社会学部の専門教育課程は、以下の概念図に示すとおり、社会学を現代社会への視座として学部教育の基礎に置き、その上に心理学、教育学、文化人類学、社会福祉学といった学を基盤にした専門性を高める専攻別カリキュラムを採用しています。それぞれの専攻のカリキュラムは基礎科目・基幹科目･展開科目に分かれており、学年が上がるにつれてより専門性の高い科目が配置されています。

科目編成における学部のキーコンセプトは「社会構想」です。これは理論的な追究と現実的、具体的な場における制度や関係の追究に分かれます。新しいつながりを基礎とする社会構想は、社会学専攻のカリキュラムによって理論的・総合的に追究されます。コミュニティ学専攻、社会福祉学専攻、国際文化専攻は、それぞれの領域における現場を素材に新しいつながりの形成を追究します。その追究の視点と方法がカリキュラムの構成となっています。

この「社会構想」の追究とともにカリキュラムの背骨になっているもう一つの柱が、「キャリア構想」関連の科目群です。このキャリア構想科目群は１年次から４年次まで系統的に設けられています。現代社会の分析からこれからの「社会」を「構想」するなかで、各自の実践的なキャリア形成の方向を具体化することを狙いとしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）

現代社会学部現代社会学科は、「中京大学の建学の精神」「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能・意欲・態度等を有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を広く求めています。多様な能力・個性をもった人たちに入学してもらうために、知識・技能以外に、思考力・表現力・判断力を重視するといった、評価の観点が異なる、複数の入り口を用意しています。

＜入学者に求める知識・技能・意欲・態度＞

〔知識・技能〕

現代社会学部での学びは、人々の営みを真正面から見つめ、そこに潜む問題を発見し、掘り起し、その原因を分析・追究し、解決を目指すものです。それゆえ、扱うテーマは広範囲に及んでいます。環境、福祉、心理、グローバリゼーション、文化、メディア、コミュニティ、家族、教育等多彩です。このようなテーマに向き合うためには、広い視野と知識が求められるため、高等学校段階において基本となる教科をしっかりと学習しておくことが大切です。

特に、現代社会学部の教育課程を通じた学びに関連しては、高等学校段階において、次のような学習をすすめておくことが望まれます。

・「社会」をテーマに学修をすすめるわけですから、その成り立ちや仕組みに関する理解が必要です。そのため、日本のみならず世界の地理・歴史や政治経済に関する基本的な知識は不可欠です。

・社会は他者との関係において形成されるものであり、それを学ぶためには他者とのコミュニケーションなしでは成り立ちません。そのためには、「読む・書く・話す・聞く」国語力が必須ですし、場合により対象とするフィールドは世界の各地にも及びますから、それぞれの国、地域の言語への興味を持つことが望まれます。そして多くの場合の共通言語としての英語力が必要になります。

〔思考力・判断力・表現力等〕

社会学では、社会学と関連領域の理論を理解するとともに、社会現象を理論にもとづいて分析したり、社会に関するデータを収集・分析したりするための、論理的・数理的思考力が要求されます。また、未来の社会のあり方を構想するために、多くの情報を総合・検証する判断力や想像力も必要です。さらに、プレゼンテーションなどを通じて、事実を報告したり提案を行ったりするための表現力、仕事を進めるためのチームワークを作り維持する能力等も求められます。こうした能力は、推薦入試や特別入試では特に重視されます。

〔意欲・態度〕

現代社会学部では、自立した個人（市民）が孤立することなく社会の中で共生するためのしくみ（公共性）と様々に生起する問題事象に対する行動（ボランティア）を教育の主軸としています。授業は座学を基礎としつつも、フィールドワーク、現場体験、プレゼンテーション等の実践系の科目を重視しており、自らが行動すること（フットワーク）が求められます。具体的には、以下のような意欲や態度を有していることが望まれます。

・現代社会と人間に対する興味や好奇心を持つことと持ち続けること。

・21 世紀社会において生起する諸課題に対する問題意識と、それらに果敢に立ち向かう気概・勇気を持つこと。

・現代社会で起きている諸問題への深い関心と、課題究明のために尽力するフットワークがあること。

・主体的・積極的に他者との関わりを持つことができること。

具体的には、各種入学試験要項において、出願資格及び試験科目を指定することにより、高等学校段階までに学ぶべき事項や修得しておくべき資格等を示しています。

各専攻では、以下の能力と態度を有する人を受け入れます。

［社会学専攻］

現代社会で生じている諸問題の原因や全体像を「社会学的想像力」の観点から多角的に理解するとともに、こうした諸問題を解決すべく、新しい社会の仕組みを構想し、自ら構

想した社会のあり方を他者に向けて発信・提案する意欲を有する人。
［コミュニティ学専攻］
　集団の分析に焦点を置く「社会学」と個人の内面を分析する「心理学」の両方に関心があり、社会調査によって現代社会のさまざまなコミュニティにおける人のつながりを明らかにして、そこにある問題を解決する意欲を有する人。
［社会福祉学専攻］
　多様な視点から現代社会や社会福祉問題及び人間を捉え、社会における関係性や人間存在を支えることを重視し、それらに主体的・積極的に向き合い、他者との協働・連携を通して自ら設定した課題を遂行する意欲を有する人。
［国際文化専攻］
　価値が多様化する現代社会を生き抜くために、世界各地のさまざまな人間の営みを「文化」の観点から理解し、「文化」の違いを超えた新たなつながりを創出することに関心があり、そのために自ら設定した課題を遂行する意欲を有する人。

学部等名　法学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　法学部法律学科は、法学（すなわち、法律学及び政治学の両分野）に関する専門知識、思考方法、問題発見及び問題解決能力を修得させるとともに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を行うことを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　法学部法律学科は、所定の課程を修め、かつ具体的に下記の６つの学修成果をあげた者に対して、学士(法学)を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ １．法学に関する基礎知識を修得することにより、身近な事例を法学的視点から捉えることができる。（基礎知識） ２．法学に関する応用知識を体系的に修得することにより、発展的な問題に対して法学的視点から取り組むことができる。（応用知識） ３．法学的思考を身につけることにより、様々な物事を論理的、客観的、批判的、かつ公正に自らの頭で考えることができる。（法学的思考） ４．法学的思考に基づいて、多様な事象の中から新たな課題を発見し、その解決方法を考えることができる。（課題の発見・解決） ５．法学的思考に基づいて形成した自らの意見を、思考の過程とともに他者に示し、説得することができる。（主張・説得） ６．法学特有のバランス感覚及び倫理観を基に、他者と協調しながら、法学に関する知識と技能を実社会において応用する素地を形成することができる。（主体性・協働性・応用力）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　法学部法律学科は、法学（すなわち、法律学及び政治学の両分野）に関する教育研究を行う学部であり、建学の精神における四大綱の「ルールを守る」人物を育成するという目的を達成するために最も相応しい学部です。 　法学部法律学科は、「教育研究上の目的（理念・目的）」に掲げたとおり、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を教育研究上の目的としています。 Ⅰ．教育課程の編成の二本柱 　法学部は、以上の教育研究上の目的を達成するため、「全学共通科目」と「学部固有科目」を大きな柱として、教育課程（＝カリキュラム）を編成しています。 　１．「全学共通科目」 　　「全学共通科目」は、教養的知識を提供することにより、法学部生が、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を培うことを目的とする科目群です。 　２．「学部固有科目」 　　「学部固有科目」は、法学部が、法学（法律学及び政治学）に関する専門的知識を提供することにより、法学部生が、社会の変化や文化の発展に対応しつつ、既存又は新規の課題発見能力及び解決能力を身につけることができるようになることを目的とする科目群です。

Ⅱ．「学部固有科目」の構成と特色

１．「学部固有科目」の構成

（１）．「必修科目」

1 年次に配当されています。「法学の基礎」は、「専門科目」のうち「基幹科目」・「展開科目」を受講するための基礎を身につけるための初年次教育科目です。また、「キャリア形成の基礎」は、将来目標とする職業に就いて理想的な社会人生活を送るためのキャリア教育科目です。

（２）．「専門科目」

「専門科目」は、「基礎科目」、「基幹科目」、「展開科目」から構成されています。

DP に掲げた学修成果との関連性は以下のとおりです。

①．「基礎科目」

DP に掲げた 6 つの学修成果のうち、主に、「１．法学に関する基礎知識を修得することにより、身近な事例を法学的視点から捉えることができる」ことを目的とする科目で、主に、1 年次に配当されています。

②．「基幹科目」

DP に掲げた 6 つの学修成果のうち、主に、「２．法学に関する応用知識を体系的に修得することにより、発展的な問題に対して法学的視点から取り組むことができる」こと及び「３．法学的思考を身につけることにより、様々な物事を論理的、客観的、批判的、かつ公正に自らの頭で考えることができる」ことを目的とする科目で、主に、2 年次に配当されています。

③．「展開科目」

DP に掲げた 6 つの学修成果のうち、「４．法学的思考に基づいて、多様な事象の中から新たな課題を発見し、その解決方法を考えることができる」、「５．法学的思考に基づいて形成した自らの意見を、思考の過程とともに他者に示し、説得することができる」及び「６．法学特有のバランス感覚及び倫理観を基に、他者と協調しながら、法学に関する知識と技能を実社会において応用する素地を形成することができる」ことを目的とした科目で、主に、3 年次・4 年次に配当されています。

（３）．「関連科目」

「経済・経営」は、法学と密接に関係しているため、法学をより深く理解するために、履修することが強く推奨されます。また、「実践科目」として、キャリア教育の一環としての「インターンシップ」（3 年次配当）が設けられています。さらに、総合大学としてのスケールメリットを活かし、各自の興味により学部横断的に異分野の科目を履修することにより、幅広く学修を進めることができます。

２．特色ある専門科目

①．「入門科目」

講義科目として「民法入門」、「刑事法入門」、「政治学入門」が設けられており、法学の専門知識を修得していくための導入教育として位置付けられています。

②．「入門演習」

1 年次に配当されていて、大学教育における能動的・主体的な学修への円滑な移行を助けるための導入教育として位置付けられています。また、2 年次配当の「基本演習」、3 年次配当の「専門演習Ⅰ」、4 年次配当の「専門演習Ⅱ」と履修することにより、4 年間継続してゼミナールに所属できることが本学部の特長です。

☆．「法実践プログラム」

実務家による講義・演習で「使える場を意識した」法学教育の実現を目標とする科目です。「講義科目」としての「法実践講義」、「演習科目」としての「法実践演習」があります。

☆．「先端研究プログラム」

大学における最新の法学研究の成果について講義する「先端研究講義」、通常の演習科目では扱わない高度な研究テーマについて少人数クラスで掘り下げて学修する「先端研究演習」があります。

３．授業の方法

①．講義

教員が、独自に、予め公表した「授業計画（シラバス）」と「学修到達目標」に基づいて、授業を展開しています。

通常の口頭による授業では、以下の点に留意して、授業しています。

（ⅰ）よく聞き取れる声

（ⅱ）教科書、板書、配布資料、視聴覚教材の効果的な使用

（ⅲ）学生の理解度やレベルへの配慮

（ⅳ）授業内容と学修目標の適切な対応

（ⅴ）新しい知識、技術、能力の修得

②．演習（ゼミナール）

少人数の学生を対象に、学生と教員、学生と学生が、お互いにディスカッション・ディベートにより双方的な質疑討論を行わせて、研究を進め、知識を修得していく授業形態です。

４．学修成果の評価

教員が、独自に、DP に掲げた学修目標の到達を的確かつ適切に評価する方法（定期試験、レポート、確認テスト、平常点等）を考え、その方法に基づいて、厳正な成績評価を行っています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）

法学部法律学科は、法学（すなわち、法律学及び政治学の両分野）に関する専門知識、思考方法、問題発見及び問題解決能力を修得させるとともに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を行うことを教育研究上の目的としています。この目的を達するため、法学部法律学科が入学者に求める能力及び意欲は下記のとおりです。

＜知識・技能＞

・高等学校等において幅広い教科の科目を学び、法学を学ぶために必要な基礎学力を有していること。

・文章を正しく「読む・書く・話す」ことができ、法学に関する文献の講読、文書の作成及び意見や成果の発表等にあたって必要となる基本的な言語能力を有していること。

＜思考力・判断力・表現力＞

・物事を単なる感覚ではなく論理に基づいて考えることができ、さらに高い論理的思考力（法学的思考力）を身につけることが求められる法学学修の前提的素地を有していること。

・人の意見に流されず、自らの判断で物事を考え自分の意見を形成することができること。

・自らの考えを整理してわかりやすく他者に伝えることができ、それを大学における法学学修によって説得力や弁論能力の向上につなげていく素質を有していること。

＜意欲・態度＞

・学問としての法学に強い興味関心を抱いており、入学後に法学の専門的知識及び技能を身につけ、論理的思考力を向上させていくことに高い意欲を有していること。

・倫理観とバランス感覚をもって、主体的かつ能動的に法学の体系的学修に励み、他者と協調しながら大学生活を送る姿勢が整っていること。

学部等名　総合政策学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　総合政策学部総合政策学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、社会科学の諸分野すなわち政治学・法律学・経済学・経営学等の幅広い基礎的学修をベースとして、実社会で生起している本来的に多面性を有する諸問題に取り組むための思考習慣を涵養することである。そのような思考の実践過程が実社会においては協働的プロセスによって行われることに鑑み、能動的学修にも重点を置く。これらの教育を通じて、企業・公共団体等の組織、また地域・国際社会等における協働的プロセスの様々な場面において重要な役割を果たすことのできる人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　総合政策学部総合政策学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（総合政策学）を授与します。 【学修成果（教育目標）】 １．市民社会を構成する社会人として社会に関わり、社会の仕組みや動きについての基本的な知識をもち、状況に応じて合理的な根拠に基づく判断をすることができる。 ２．集団や組織を運営するためのリーダーシップ及びチームワークに基づくマネジメント能力を身につけている。 ３．社会の諸問題に関する論理的思考力を身につけている。 ４．政治学・法律学・経済学・経営学を中心とした社会科学を多面的に学修し、さらにプロジェクト研究、社会人基礎力講座等において社会に関する諸問題を数量的スキルや情報リテラシーを用いて分析し、問題に取り組むための思考習慣を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　総合政策学部の教育研究上の目的に沿って政治学、法律学、経済学、経営学の各学問分野の基礎を総合的に学修し、複雑に絡み合う今日的な問題を基礎的・本質的側面から多面的に捉えることができるようになるために、以下に示す教育課程を編成・実施します。 １．初年次教育：1年次に総合政策概論、「アカデミック・スキルズA,B」、キャリア・デザイン、及び2年次に「ロジカル・シンキング」の授業にて、「4技能（読む・書く・聴く・話す）」能力の育成強化を図る。また、課外に2年次からの「プロジェクト研究」選択の参考とすることを主目的とした教員とのコミュニケーションを図るオフィスラリーの機会を春・秋の両学期に実施することによって、高等学校から大学への円滑な移行を図る。 ２．教養教育：総合政策学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に基づき、教養的知識を供し、総合的な知を身につけることを目的とする「全学共通科目」により、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。 ３．専門教育：導入科目と展開科目に分類する。導入科目として「総合政策概論」、「政治学概論」、「法学概論」、「経済学概論」、「経営学概論」等の必修科目及び選択必修科目を講義形式にて配置する。展開科目として社会科学全般を幅広く学ぶ選択科目を講義形式にて配置することにより、諸問題に取り組むための思考習慣の涵養をさらに促す。そして、2年次からは「総合政策プロジェクト研究」や「社会人基礎力講座」等の演習科目によって、少人数授業でのディスカッション・ディベート・プレゼンテーションを通じた双方向型の授業によって能動的な学修を実施する。また、「総合政策特殊講義」によって、学内外の講師による社会の多様な問題に対応するための学修を実施する。

４．キャリア教育：「キャリア・デザイン」、「キャリア・イングリッシュ」、「インターンシップ」等の科目を配置し、総合政策学部での学修をもとにしたキャリア形成教育を実施する。 小テスト、レポート、定期試験、プレゼンテーション等を通じて、これらの科目に対する成績評価の厳正化によって、上記についての最低限の資質・能力を検証します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
（概要） 総合政策学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定めた「教育研究上の目的 （理念・目的）」に基づき、積極的に学修し、自らを高めていく意欲ある人を求めています。 総合政策学部は、大学での充実した学びを達成するため、以下のような能力や意欲をもつ入学希望者を求めています。 ・高等学校での学びを通じて、政治学・法律学・経済学・経営学を中心とした社会科学の学修を可能とする幅広い知識を持ち備えている人。 ・その思考習慣を涵養するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び論理的思考力を持ち備えている人。 ・正課内外を問わず様々な活動に参加し、主体性をもって様々な人々と協働して学んできた人。 ・新たな課題を発見し、それを解決するために考え、行動することができる人。 ・研究活動や課外活動、学生生活を通じて、これからの世の中で必要となる知識を身につけ、将来、社会の一員として大きく貢献する意志と意欲を持つ人。 入学前には、高等学校での各教科の幅広い学びを通じ、世界で起きている問題への意識や関心を高めておくことが重要です。

学部等名　経済学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　経済学部経済学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、経済現象を理論的・実証的・歴史的見地から解明し、経済問題の解決に広く貢献することを理念とする。基本的な経済学の知識を修得させること、現代情報化社会に適応できる能力を養わせること、および国際感覚に優れ、幅広い教養と総合的な判断力を培わせることを通じて、国際環境の変化と国内経済の変動に対処するべく、国際性と専門性を兼ね備えた、理論と実践に強い優れた人材の養成を教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　経済学部は、中京大学「学位授与の方針」で示された能力を身につけるとともに、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（経済学）を授与することとします。 １．経済学の基本的な考え方や理論を理解できる。 ２．経済現象や経済の歴史・制度を分析的に考察できる。 ３．経済分析に必要な情報や経済データを選択・収集・処理できる。 ４．現実の経済における課題を発見・分析し、その結果を記述・表現できる。 ５．国際感覚及び教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる。 ６．様々な問題の解決に向けて、他者と協調し、リーダーシップを発揮して、主体的に行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　経済学部では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施します。 【カリキュラムの全体構成】 　経済学部の教育課程は、「教育研究上の目的（理念・目的）」に基づき、以下に示すカリキュラムの概念図のように、幅広く深い教養と総合的な判断力を養うことを目的とする「全学共通科目」と、専門的知識だけではなく、国際社会に通用する能力の育成を目指す「学部固有科目」から構成されます。 【学部固有科目の構成】 　経済学部の専門教育課程の卒業要件単位は 80 単位であり、学部固有科目は、「専門科目」と「ジェネリック・スキル科目」から構成されます。「専門科目」は、基礎から、基幹、展開と段階的に専門性を積み上げるカリキュラムとなっており、経済の仕組みを正しく理解した上で、専門知識と理論を学修します。個々の科目は相互の関連性により、さらに「経済分析」「政策」「国際経済」の 3 つの科目群及び「共通科目」に分けられ、系統的な履修ができます。「ジェネリック・スキル科目」は、表現力、語学力、海外経験、EXP（エグゼクティブ・プログラム）からなり、経済の専門知識・理論を効果的に修得し、実践するための汎用な能力を養うことができます。 【科目群の構成】 　各科目群は、カリキュラムマップ(別紙)に示す複数の科目によって構成され、各科目群では、主として以下の能力を身につけることを学修目標とします。 　共通科目群：経済学の基本的な考え方や理論を理解する能力 　経済学関連科目群：経済に関連する幅広い知識を学び広い視野で物事を捉える能力 　経済分析科目群：経済データを選択・収集・処理し、分析的に考察する能力 　政策科目群：経済現象、経済の歴史・制度、政策を分析的に考察する能力 　国際経済科目群：国際的な経済現象とその課題を分析的に考察する能力 　演習科目群：課題を発見し、他者と協調して、解決に向けて行動する能力

表現力科目群、語学力科目群：現象や思考を記述・表現することを通じて他者と協調する能力
海外経験科目群：グローバルに経済現象を考える能力
EXP 科目群：リーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつける能力

【年次配当】

1 年次においては、経済学の学修を始める上で必要とされる科目が配当されています。「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」「入門ゼミ」「日本語表現」「キャリア・マネジメント入門」は、必修科目（9 単位）としてすべての学生が修得し、その他に 1 年次に学修しておくのが望ましい科目を選択必修科目として 8 単位以上修得します。2 年次では、経済学の中心的な分野を集めた基幹科目の中から選択必修科目として 20 単位以上を修得します。3・4 年次では、「経済分析」「政策」「国際経済」のそれぞれに関連する展開科目を中心に選択科目を履修します。また、2 年次秋学期からは、少人数で個別の専門テーマを能動的に学修する「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を選択できます。

【履修モデル設定】

経済学部における専門教育課程のカリキュラムでは、体系的・整合的に学修を進められるように 3 つの履修モデル「経済分析モデル」「政策モデル」「国際経済モデル」を提示し、規範的な履修方法を示しています。これらのモデルは、専門的関心や将来の目標にあわせて、1 年次から 4 年次まで専門科目とジェネリック・スキル科目を組み合わせた無理のない修得方法となるように設定されています。

【特徴的な科目】

経済学部の専門教育課程では、講義科目と演習科目を組み合わせた学修を勧めています。演習科目では、専門テーマに関する基礎的知識を定着させるとともに、課題解決に必要な方法を修得することで現実社会で必要とされる思考力、判断力及び表現力を有する人材の育成を目指しています。語学力、表現力、海外経験及び資格等、すべての社会人に求められる汎用的なスキルを身につけるための科目をジェネリック・スキル科目として開講し、中でも EXP 科目は、企業幹部や上級公務員として能力を発揮しうる人材育成を目的としたキャリアプログラムであり、確かな就職に向け、学生一人ひとりに向き合ったきめ細かな支援を行っています。

【初年次教育】

初年次教育として、全ての学生が、「日本語表現」「入門ゼミ」「キャリア・マネジメント入門」を必修科目として履修することになっています。「日本語表現」「入門ゼミ」では、経済学部での学修を円滑に行うためのスタディスキル及びアカデミックスキルの修得並びにコミュニケーション力及びプレゼンテーション力の養成を目指しています。「キャリア・マネジメント入門」では、学部での学びと卒業後の人生との有機的な連関を構築するために、明確な目的意識をもって日々の大学生活に取り組む姿勢を形成します。

【成績評価】

各科目の授業は、シラバスで公表している授業概要と学修到達目標に基づいて行い、シラバスに明記されている方法・基準で厳格に評価を行います。

経済学部では、授業支援システムの活用と履修相談会の開催によって、各学生の学修の進捗状況を把握して適宜アドバイスを行う体制を整備し、学生が、カリキュラムと調和した学修を行えるように PDCA サイクルを意識したガイダンスを行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）

（概要）

経済学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の教育の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、中京大学「入学者受け入れの方針」を踏まえ、これまでに培った知識や技能を土台として、真摯な態度で経済学を学び、昇華させる意欲的な人を広く求めています。特に以下の知識・技能・思考力・判断力・意欲・態度を持つ人を求めています。

＜入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・意欲・態度＞

・さまざまな経済現象を理論的に捉える力を養うための、数学的思考力を有している人。

・世界で活躍するための、英語を始めとする外国語で他の人とコミュニケーションを取る技能を有している人。少なくとも、高等学校で「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を確実に学習していることが望ましい。
・レポートの作成や、プレゼンテーション及びディスカッションにより、自身の考えを正確に伝えるための、国語力を有している人。新聞等に目を通す習慣を身につけていることが望ましい。
・現代社会の成り立ちと、そのさまざまな問題を理解するための、地理・歴史・公民等の社会科に関する強い関心と深い知識を有している人。
・自分の視野や知識を広げる努力を惜しまず、直面する社会的・経済的問題に対して、関心を抱き、主体的に学習する意欲を持っている人。
・地域や国内外の社会に根ざし、将来、そこでの活躍や貢献を視野に入れて、コミュニケーション能力及び自己表現能力の向上を目指す人。

学部等名　経営学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　経営学部経営学科は、社会の持続的な発展に寄与するために、現代社会に即した経営理論とその実践への応用力、論理的思考力を身につけ、企業を始め官公庁、NPO 法人などの様々な組織でリーダーとして活躍できる人間性・創造性豊かな人材を養成する。具体的には、次に掲げる知識や能力を備えた人材の養成に取り組む。 （1）経営に関する基本的及び応用的・発展的な専門知識 （2）社会の発展の中で経営を社会、人間、自然、歴史、文化に関連づけて理解するための幅広い教養的知識 （3）情報コミュニケーション技術、外国語、簿記･会計に関する活用能力 （4）問題を発見し論理的に分析する能力及び創造的に解決する能力 （5）組織や集団を運営し、他者と協調・協働して目標を達成するためのリーダーシップ及びコミュニケーション能力 （6）地域はもとより国家･世界に寄与する多様な視点
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　経営学部経営学科は、教育研究上の目的に基づき、以下の能力と資質を持つと認められる学生に学士の学位を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ 【知識・理解】 １．経営に関する基本的な専門知識を理解し、説明できる。 ２．経営現象を社会、文化、歴史の観点から理解し、説明できる。 【汎用的技能】 ３．情報コミュニケーション技術、外国語、簿記・会計に関する基礎的能力を持ち、適切に活用できる。 ４．他者の考えを理解しつつ、自分の考えを文章やプレゼンテーションを通して正確に伝達できる。 ５．経営課題を発見し、解決に向けて論理的に分析できる。 【態度・指向性】 ６．多様な考え方を持つ他者と協調・協働し、リーダーシップをも発揮できる。 ７．グローバル社会の一員として幅広い視野で物事をとらえ、社会の発展に積極的に関与できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　経営学部経営学科は、学位授与方針に定めた能力と資質を持つ人材を育成するために、以下のように教育課程を編成し、実施します。 　本学部の学生の進路は、多様な業種や職種に渡り、就職後も配置転換、転職など多様な職場を経験する可能性があることから、多様な科目を段階的、体系的に履修できるように配慮しています。具体的には、以下のように科目を分類し、履修モデルを提供しています。 １．全学共通科目と学部固有科目 　グローバル化、複雑化が加速する現代社会に対応するためには、幅広い視野が不可欠であり、専門知識とともに幅広い視野を養う教養知識が必要であることから、以下のとおり全学共通科目と学部固有科目を設けています。 ①全学共通科目：幅広い視野を養うための、社会、人間、自然やコミュニケーションに関連した科目 ②学部固有科目：経営学に関連した専門知識や技能を身につける科目

２．学部固有科目の区分
　専門知識を段階的に身につけることができるように、学部固有科目を以下のとおりに大きく分類しています。
①学部共通科目（必修科目又は選択必修科目）：経営学を学び、将来の進路を考える上で必須の知識や技能を身につける初年次教育科目
②基礎科目（選択必修科目）：経営学を学ぶ上で必要な基礎知識を身につける科目
③基幹科目（選択必修科目）：経営学の各分野を深く学ぶ上で事前に必要となる知識を身につける科目
④展開科目（選択科目）：経営学の各分野を深く学ぶ科目
３．学部固有科目の科目群
　専門知識を分野別に身につけるために、学部固有科目を以下のとおりに大きく分類しています。
①学びの基礎：読む・書く・聞く・話すの基礎的なリテラシーとキャリアデザインについて学ぶ。
②経営学の基礎：経営学の基礎を体系的に学ぶ。
③企業・ストラテジー分野：組織の中・長期的な方針・計画を立案し、実現する方法について学ぶ。
④組織・マネジメント分野：経営の基礎となる組織の運用・管理に関する手法について学ぶ。
⑤会計・ファイナンス分野：経営に必要となる資金の流れを含む計数を把握し、活用する方法について学ぶ。
⑥演習科目：少人数の双方向型授業により、各専門分野に関する実践的知識を身につける。
⑦ビジネス・データサイエンス：データの集積から価値ある情報を生み出し、ビジネスに活用する技能を高める。
⑧グローバル・ビジネス・コミュニケーション＆リーダーシップ：ビジネスプロフェッショナルとして活躍するための英語能力、論理的思考力、リーダーシップやコミュニケーション能力を高める。
⑨関連科目：経営学を理解する上で重要な周辺の知識を獲得する。
４．学修成果（教育目標）と学部固有科目との関係
　学修成果に関連する代表的な学部固有科目は、以下のとおりです。
【知識・理解】
①経営に関する基本的な専門知識を理解し、説明できる。
　「経営学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代企業論」「中小企業論」「経営戦略論」
　「マーケティング論」「経営組織論」「経営管理論」「人材マネジメントⅠ・Ⅱ」「経営情報論Ⅰ・Ⅱ」「会計学Ⅰ・Ⅱ」「管理会計Ⅰ・Ⅱ」「金融論」「コーポレート・ファイナンスⅠ・Ⅱ」など
②経営現象を社会、文化、歴史の視点で理解し、説明できる。
　「経営学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代企業論」「中小企業論」「経営戦略論」「マーケティング論」「経営組織論」「経営管理論」「企業と社会論」「日本経営史」「国際経営史」「国際経営論」「国際ビジネス戦略」「全学共通科目」「関連科目」など
【汎用的技能】
③情報コミュニケーション技術、外国語、簿記・会計に関する基礎的能力を持ち、適切に活用できる。
　「データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ」「ビジネス・データサイエンスA・B」「ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ」「海外ビジネス研修」「ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ」「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」など
④他者の考えを理解しつつ、自分の考えを文章やプレゼンテーションを通して正確に伝達できる。
　「アカデミックスキルズ」「ストラテジック・シンキング」「コーチングコミュニケーション＆リーダーシップ」「プロジェクト・マネジメント」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「経営

プロジェクト研究A～D」など
⑤経営課題を発見し、解決に向けて論理的に分析できる。
「ストラテジック・シンキング」「コーチングコミュニケーション＆リーダーシップ」「プロジェクト・マネジメント」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「経営プロジェクト研究A～D」「インターンシップⅠ・Ⅱ」など
【態度・指向性】
⑥多様な考え方を持つ他者と協調・協働し、リーダーシップをも発揮できる。
「ストラテジック・シンキング」「コーチングコミュニケーション＆リーダーシップ」「プロジェクト・マネジメント」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「経営プロジェクト研究A～D」など
⑦グローバル社会の一員として幅広い視野で物事をとらえ、社会の発展に積極的に関与できる。
「全学共通科目」「海外ビジネス研修」「海外短期研修Ⅰ・Ⅱ」「海外留学」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」など
５．カリキュラム実施における取り組み
これらのカリキュラムの円滑な運営のために、学部として、シラバス、カリキュラム、授業内容などの自己点検活動を通して、教育の質を確保するよう取り組んでいます。成績評価については、個々の教員が学修到達目標に基づき、厳格な成績評価を行っています。
また、学生の支援として、入学時に実施される履修ガイダンスや新入生オリエンテーションを通して、カリキュラムの理解を促し、個人の要望に応じた履修ができるように配慮しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）
経営学部経営学科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、および学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に基づき、以下に示す知識・技能、思考力・判断力、意欲・態度を有しており、それを土台に学びを深化させたいと考えている人を広く求めています。
〈入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・意欲・態度〉
経営学の学修対象の中心は、現代社会における様々な組織であり、それらを取り巻く環境の経済的、社会的、歴史的、国際的理解が不可欠です。組織が抱える問題を解決するためには、数学的なアプローチも必要となります。
これらの知識を理解し、自分の考えを発信するには日本語力はもちろんのこと、英語力も不可欠となります。
以上の理由から、高等学校における各科目の基礎学力を身につけておくことが望まれます。
本学部では、問題発見能力やコミュニケーション能力を高めるために、グループ・ディスカッションに取り組む授業も準備されているため、多様な考えや意見を理解しながら主体性を持って他の人々との協働（チームワーク）を進め、率先してリーダーシップをも発揮する意欲を持つことが望まれます。
本学部では、大学での充実した学びを達成するために、具体的には以下のような入学希望者を求めます。
・組織の経営管理や、そこで仕事をすることに関心がある。
・組織を取り巻く社会の様々な環境に関心がある。
・自分の考えや意見を、プレゼンテーションや討議を通して伝えることに関心がある。
・問題を主体的に発見し、分析することに関心がある。
・組織や集団における協働やリーダーシップについて関心がある。
・広い視野で物事を理解することに関心がある。

学部等名　工学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　工学部機械システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、メディア工学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。 （１）　機械システム工学科は、機械と情報を要素技術として、人間生活の利便性と生活の質を向上させるために、先進的な機械システムを築くことのできる基礎的な知識と技術を有した実践力のある人材の育成を目的とする。学生が、機械や機械システムの設計の基本原理と各種機械要素の機能や原理、材料選択や製造加工など設計や製作、人工知能などの情報技術によるシステム制御のための基本的な知識と技術の修得と、機械の性能や安全性について判断や評価ができる基礎的な知識を身につけることを、教育研究上の目的とする。 （２）　電気電子工学科は、電気、電子、情報通信技術の基礎を確実に修得し、急速に進歩する電気電子工学分野の産業の発展を担う信頼感のある技術者の養成を目的とする。学生が、電気回路及び電磁気学に関する基礎的な知識を修得した上で、電気系科目では電気機器及び電力ネットワークの基礎知識を、電子系科目では電子デバイス、集積回路など半導体の基礎知識を、情報系科目ではデータサイエンスを意識した組込みシステムや画像信号処理の基礎知識を、通信系科目では通信システム、無線通信の基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。 （３）　情報工学科は、高度に並列分散化しネットワークで結ばれた時代に即応できる情報システムの設計、実装、運用に携わる人材の育成を目的とする。学生が、情報システムの基本構成と基本要素について理解し、プログラミングとソフトウェア開発、情報処理環境の機能と運用、情報処理技法の設計と評価、情報と計算に関する形式的記述と論理的思考、人工知能とデータサイエンスに関する素養、ハードウェアやソフトウェアの設計と製作、分散システムの設計や開発に関する基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。 （４）　メディア工学科は、情報通信技術を情報の媒体と捉えた応用システムの考案、開発を担うメディア技術者の養成を目的とする。学生が、人工知能などの情報技術の基礎的な理論と技能を修得し、アプリケーションソフトの開発、情報デザインのための処理技術と表現技術、メディア情報処理システムの設計や開発などのメディア技術とメディアデザインに関する基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） **機械システム工学科** 　工学部機械システム工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ １．幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。 ２．工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、機械・ロボット工学と情報工学の基本技術を活用できる。 ３．メカトロニクス分野、ロボティクス分野、知能システム分野のいずれかの一つ以上について、自律的に応用展開を図る能力を身につけている。 ４．工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。 ５．技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。 **電気電子工学科** 　工学部電気電子工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連

分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。
＜学修成果（教育目標）＞
１．工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、電気電子工学の基本技術を活用できる。
２．制御・メカトロニクス分野、エレクトロニクス分野、通信分野のいずれか１つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。
３．工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
４．修得した知識や技能に基づき、自らが発見した新たな課題を解決できる。また、持続可能な社会構築について創造的な考え方を発信することができる。
５．グローバル化が進展する社会で活躍するために不可欠な言語力、モラルに則って情報を収集・活用する能力、他者と協調して目標実現するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ精神を身につけている。
６．技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
７．幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

情報工学科
工学部情報工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。
＜学修成果（教育目標）＞
１．工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、情報工学の基本技術を活用できる。
２．数理的な基礎思考力とコンピュータで利用するためのハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を身につけている。
３．コンピュータエンジニアリング分野、人工知能・データサイエンス分野、ウェブ・ネットワーク分野、のいずれか１つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自律的に応用展開を図る能力を身につけている。
４．工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
５．技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
６．幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

メディア工学科
工学部メディア工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。
＜学修成果（教育目標）＞
１．工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、メディア工学の基本技術を活用できる。
２．メディア技術分野、メディアデザイン分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。
３．人工知能やデータサイエンスを含む工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
４．技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
５．幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）

機械システム工学科

工学部機械システム工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

＜専門教育課程の構成＞

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。機械システム工学科における教育課程の履修・単位取得により、メカトロニクス、ロボティクス、知能システムに必要となる知識と技術の修得を可能とします。

1．授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2．履修モデルは、機械工学と制御技術を学ぶメカトロニクスモデル、ロボット開発に必要な工学理論を学ぶロボティクスモデル、人間情報や人工知能などの情報処理技術および機械システムの設計・制御理論を学ぶ知能システムモデルとする。
3．学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
4．工学基礎科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系の科目を配置する。
5．学科基盤科目と学科展開科目は、3 つの履修モデルを想定した構成とする他に、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系及び総合系を配置する。これら専門科目により機械システム工学の基本技術を修得する。
6．卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1 年次からの継続的科目により研究能力を培い、4 年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。
7．1 年次で 22 単位、2 年次で 38 単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3 年次で 44 単位の必修科目の学部固有科目修得とプロジェクト研究基礎演習・プロジェクト研究応用演習の単位修得を 4 年次への進級要件とする。
8．「学部固有科目」は 90 単位、「全学共通科目」は 34 単位、合計 124 単位の修得を卒業要件とする。

電気電子工学科

工学部電気電子工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

＜専門教育課程の構成＞

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。電気電子工学科における教育課程の履修・単位取得により、制御・メカトロニクス、エレクトロニクス、通信に必要となる知識と技術の修得を可能とします。

1．授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2．学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3．学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4．専門科目群は、電気・システム制御技術を学ぶ制御・メカトロニクス系、半導体・電子工学技術を学ぶエレクトロニクス系、通信・電波技術を学ぶ通信系、データサイエンス・情報処理技術を学ぶ情報系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系

および、総合系を配置する。これら専門科目により電気電子工学の基本技術を修得する。

５．1 年次で 12 単位、2 年次で 32 単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3 年次で 36 単位の必修科目の学部固有科目修得と電気電子工学実験 2 の単位修得を 4 年次への進級要件とする。

６．「学部固有科目」は 90 単位、「全学共通科目」は 34 単位、合計 124 単位の修得を卒業要件とする。

７．卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1 年次からの継続的科目により研究能力を培い、4 年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。

８．教職資格については、高等学校教諭一種・工業の教員資格取得を可能とする。

９．工業高校からの入学者、高等学校段階で理数科目を充分に履修していない学生のために、物理及び数学の基礎を固める科目を配置し、春学期、秋学期の両方に開講する等、高等学校の学習から大学教育への円滑な移行を助ける。

１０.プロジェクト系科目と合わせて技術者倫理科目を配置し、技術者としての倫理観を深め、社会へ貢献するための基本的考え方を身につける。

情報工学科

工学部情報工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

＜専門教育課程の構成＞

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。情報工学科における教育課程の履修・単位取得により、コンピュータエンジニア、システム・ソフトウェアエンジニア、ウェブ・ネットエンジニア、人工知能人材・データサイエンティストに必要となる知識と技術の修得を可能とします。

１．授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。

２．学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。

３．学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。

４．専門科目群は、情報システムやソフトウェア技術を学ぶシステム・ソフトウェア系、人工知能やデータサイエンスを学ぶ人工知能・データサイエンス系、ウェブ工学や通信技術を学ぶウェブ・ネットワーク系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系及び情報工学の総合系を配置する。これら専門科目により情報工学の基本技術を修得する。

５．1 年次で 12 単位、2 年次で 16 単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3 年次で 54 単位の学部固有科目修得を 4 年次への進級要件とする。

６．「学部固有科目」は 90 単位、「全学共通科目」は 34 単位、合計 124 単位の修得を卒業要件とする。

７．卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1 年次からの継続的科目により研究能力を培い、4 年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。

メディア工学科

工学部メディア工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

＜専門教育課程の構成＞

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、

さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。メディア工学科における教育課程の履修・単位取得により、メディア技術の修得及びその応用を実践するためのメディアデザイン能力の養成を可能とします。

1．授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2．学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3．工学基礎科目として、基礎理論系、リテラシ系、キャリア支援系の科目を配置する。
4．学科基幹科目として、体験型学習によりメディア応用を実践する実習・プロジェクト系、情報技術の基礎を学ぶ情報技術系、プログラミングの基礎を学ぶプログラミング系の科目を配置し、これら専門科目によりメディア工学の基礎技術及び実践力を修得する。
5．学科展開科目として、映像・音響メディアの処理技術を学ぶメディア処理系、メディア応用のためのデザインを学ぶメディア応用系 、メディアと社会との関りを学ぶメディア社会系を配置し、これら専門科目によりメディア工学の専門技能を修得する。
6．1 年次で 16 単位、2 年次で 40 単位、3 年次で 54 単位の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。
7．「学部固有科目」は 90 単位、「全学共通科目」は 34 単位、合計 124 単位の修得を卒業要件とする。
8．卒業要件となる研究は、1 年次からのプロジェクト系の継続的科目により研究能力を培い、4 年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）

（概要）

工学部においては、基幹分野に関する基本的な知識の理解と技術の獲得と、豊かな創造性の涵養を図るために、工学系分野に興味・関心を持つ人を積極的に受け入れます。

高等学校において関連の教科、科目を幅広く学び、大学での学修に必要な基礎学力を有していること、学修活動、各種技術の習得において自己の研鑽を積み、実績を挙げていることを基本方針として、本学部では、数学と理系科目を重視した学力試験に合格した志願者とともに、課外活動を通して工学に関わる資格、実績などを有する志願者を受け入れます。「教育研究上の目的（理念・目的）」にある人材を輩出するため、以下に示す能力と意欲のある人を広く求め、受け入れます。

＜入学者に求める知識・技能・意欲・態度＞

1．一般選抜として、数学を重視した入学試験を実施し、その他の選抜として、理系学力以外に工学分野に関連する資格や実績を有する人の推薦入試を実施します。
具体的に必要となる学力として、数学については、「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B」の充分な理解が重要であり、さらに、「数学Ⅲ、数学 C」の学習も望まれます。また、推薦入試においては、論理的思考の基本が必要となるため、基本的な作文力として国語における論述技術や表現力が重要です。
2．各学科では、以下の能力と態度を有する人を受け入れます。
・機械システム工学科は、機械・ロボット工学と情報技術を活かした実践力を持つ技術者を養成する人材に適し、ものづくりの創意工夫に関心があり、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。
・電気電子工学科は、電気、電子、情報、通信技術を活かした実践力を持つ技術者を養成する人材に適し、好奇心を持ち実験とその洞察に関心があり、自ら設定した課題を遂行する意欲を有する人を募集します。
・情報工学科は、データサイエンスを活用したデータ整理・分析、ネットワーク設計・構築・運用、情報システムのハードウェアやソフトウェアの設計、実装及び運

用に携わる技術者養成に適した人材を求めており、論理的構成を積み上げることに関心があり、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。

・メディア工学科は、デジタル技術を活用した創造的活動及びメディア工学技術およびメディアデザインの応用研究に興味があり、現代の幅広いニーズに応え得る技術者養成に適した人材を求めており、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。

学部等名　スポーツ科学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） 　スポーツ科学部は、組織として研究対象とする中心的な学問分野をスポーツ科学とし、当該分野における諸科学の総合的な教育研究を通じて、体育・スポーツ、スポーツと健康、スポーツと社会に関する専門的な知識とそれを応用する能力を涵養するとともに、幅広く深い教養と科学的根拠に基づく意思決定力及び豊かな人間性を兼ね備え、広く社会に貢献できる人材を養成する。 ≪スポーツ教育学科≫ 　スポーツ教育学科は、スポーツと教育に関する知識を修得し、その知識を総合的に理解・応用することができる能力と、心身の発達段階に応じた実技指導能力及び生涯スポーツ社会における豊かなスポーツライフの実現に寄与できる能力を身につけた人材を養成する。 ≪競技スポーツ科学科≫ 　競技スポーツ科学科は、スポーツ科学に関する知識を修得したうえで、競技パフォーマンス向上のためのトレーニング科学、及びコーチング科学に関する知識とそれを実践的場面で応用する技能を有した人材を養成する。 ≪スポーツ健康科学科≫ 　スポーツ健康科学科は、スポーツと健康科学に関する専門的な知識を修得したうえで、健康づくり運動やレクリエーションスポーツの実践力や指導力を有した人材及び子どもから高齢者までのすべての国民の健康づくりをサポートすることができる能力を有した人材を養成する。 ≪トレーナー学科≫ 　トレーナー学科は、運動による外傷や障害への対応に関する専門的な知識と、科学的根拠に基づいたトレーニング法や健康管理法を修得したうえで、スポーツをする全ての人の安全と安心を確保し、パフォーマンスの回復や向上を支援することができる能力を有した人材を養成する。 ≪スポーツマネジメント学科≫ 　スポーツマネジメント学科は、スポーツに関する基礎知識に加えて、産業や経済、組織運営等について学ぶことにより、各種スポーツ関連施設をはじめ、幅広い領域のスポーツ組織（営利・非営利含む）の運営、及び関連産業・ビジネス分野において、高い実践力と行動力をもって活躍できる人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）
（概要） **スポーツ教育学科** 　スポーツ科学部スポーツ教育学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。 ＜学修成果（教育目標）＞ １．学術とスポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得している。 ２．幅広く深い教養を身につけて、科学的根拠に基づく意思決定ができる。 ３．スポーツ科学に関する基礎的知識を総合的に修得し、それらを応用する能力を身につけている。 ４．スポーツの実技力と指導力を身につけている。 ５．スポーツと教育に関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。 ６．専門的な知識を学校教育や社会教育に関連づけて活用することができる。 **競技スポーツ科学科** 　スポーツ科学部競技スポーツ科学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。

＜学修成果（教育目標）＞
１．学術とスポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得している。
２．幅広く深い教養を身につけて、科学的根拠に基づく意思決定ができる。
３．スポーツ科学に関する基礎的知識を総合的に修得し、それらを応用する能力を身につけている。
４．スポーツの実技力と指導力を身につけている。
５．自らの競技パフォーマンスを向上させるためのトレーニングに関する知識と技能を身につけている。
６．他者の競技パフォーマンスを向上させるためのコーチングに関する知識と技能を身につけている。

スポーツ健康科学科

スポーツ科学部スポーツ健康科学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。
＜学修成果（教育目標）＞
１．学術とスポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得している。
２．幅広く深い教養を身につけて、科学的根拠に基づく意思決定ができる。
３．スポーツ科学に関する基礎的知識を総合的に修得し、それらを応用する能力を身につけている。
４．スポーツの実技力と指導力を身につけている。
５．ライフステージとライフスタイルに応じた健康づくりのための運動・スポーツ指導を実践できる。
６．スポーツを通じたヘルスプロモーション活動を社会で実践する能力を身につけている。

トレーナー学科

スポーツ科学部トレーナー学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。
＜学修成果（教育目標）＞
１．学術とスポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得している。
２．幅広く深い教養を身につけて、科学的根拠に基づく意思決定ができる。
３．スポーツ科学に関する基礎的知識を総合的に修得し、それらを応用する能力を身につけている。
４．スポーツの実技力と指導力を身につけている。
５．トレーニング科学の観点からスポーツパフォーマンスをサポートする実践力を身につけている。
６．競技者のスポーツ外傷・障害予防及び競技復帰を支援するための実践力を身につけている。

スポーツマネジメント学科

スポーツ科学部スポーツマネジメント学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。
＜学修成果（教育目標）＞
１．学術とスポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得している。
２．幅広く深い教養を身につけて、科学的根拠に基づく意思決定ができる。
３．スポーツ科学に関する基礎的知識を総合的に修得し、それらを応用する能力を身につけている。
４．スポーツの実技力と指導力を身につけている。
５．スポーツの経営に関する専門的知識を活用し、様々な事業に関わる能力及び行動力を身につけている。
６．社会の多様なニーズに応え、広くスポーツ振興に貢献できる知識と能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）

スポーツ教育学科

　スポーツ科学部スポーツ教育学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

＜全学共通科目＞

　＜全学共通科目＞

　中京大学（以下「本学」という。）では、人類が築いてきた知の成果に対する理解を深めつつ総合的な知を身につけ、学士課程教育における人材養成の目的を達成するために、教養教育として位置づける「全学共通科目」を配置します。具体的には、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための「自然の探究」、「人間の探究」、「社会の探究」、「新領域」の科目群、外国語の実践的な運用能力を高めるための「外国語基礎」、「外国語演習」の科目群等から編成します。

　＜学部固有科目＞

　学部固有科目は、専門教育科目として位置づけ、学部共通科目、学科開講科目及び他学科履修科目から編成します。各学科の人材養成の目的を達成するために必要となる講義科目、演習科目、実技・実習科目を適切に配置するとともに、基礎から応用・展開までを段階的に学べるよう「導入科目」、「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」、「展開科目」の各科目群から編成することで、科目間の関係や履修順序等に配慮した体系的な編成とします。

導入科目

　初年次教育としての「アカデミック・スキルズ」では、学部での学び方を理解するために教育課程全般、学部の DP・CP やカリキュラムツリー、各科目のシラバスやルーブリックの利用方法等について学びます。さらに、思考力や判断力、主体性や協調性を高めるための知識と技能を身につけさせる教育も提供します。また、本学の取組として、すべての学部学生が個人用 PC を有する BYOD（Bring Your Own Device）を導入しているため、「情報スキルズ」や「データサイエンス入門」等の科目を配置します。これらの科目では機器やソフトの使用方法のみならず、情報の活用方法や情報倫理に関する教育を施します。「スポーツ科学入門」は細分化されたスポーツ科学の専門分野について、それぞれの内容や特徴、トピック等を各分野の専門家である専任教員がオムニバス形式で紹介し、学部での専門教育を網羅的に把握することができる科目です。これらの導入科目は 5 学科に共通して配置します。

基礎科目

　スポーツ科学を総合的に学ぶ基礎科目として、必修科目を中心に配置します。学部基礎科目には、身体活動の基礎を学ぶ「トレーニング基礎」、「レクリエーション基礎実習」、「健康学概論」を配置し、学科基礎科目には、スポーツ科学の総合的理論を学ぶ「体育・スポーツ原論」、「体育・スポーツ史」、「解剖・生理学」、「運動・スポーツ生理学」、「バイオメカニクス」、「体育・スポーツ心理学」、「生涯スポーツ論」等の基礎科目を配置します。

基幹科目

　基幹科目には、学科の基礎となる科目、応用科目には、学科の特性に応じた応用科目や演習科目等、スポーツ科学の専門性を高める科目を配置します。

学部基幹科目には「スポーツ実技 A・B・C・D」を、学科基幹科目には、「スポーツ教育学」、「健康教育学」等を配置します。

応用科目

　学部応用科目には、「ゼミナール」等を配置します。学科応用科目には、「体育実技指導法」、「学校指導実習」等を配置します。

展開科目

　スポーツ科学に関する知見を幅広く総括するための科目を配置し、他学科履修科目はこの科目群に含めることとします。

学部展開科目には、「インターンシップ」、「海外事例研究」を、学科展開科目には、「レジャー・レクリエーション論」、「障害者スポーツ論」、「スポーツ法学」等を配置します。
成績評価
　成績評価は、シラバスに到達目標と基準を明記し、厳格に行います。

競技スポーツ科学科
　スポーツ科学部競技スポーツ科学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。
＜全学共通科目＞
　＜全学共通科目＞
　中京大学（以下「本学」という。）では、人類が築いてきた知の成果に対する理解を深めつつ総合的な知を身につけ、学士課程教育における人材養成の目的を達成するために、教養教育として位置づける「全学共通科目」を配置します。具体的には、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性 を涵養するための「自然の探究」、「人間の探究」、「社会の探究」、「新領域」の科目群、外国語の実践的な運用能力を高めるための「外国語基礎」、「外国語演習」の科目群等から編成します。
　＜学部固有科目＞
　学部固有科目は、専門教育科目として位置づけ、学部共通科目、学科開講科目及び他学科履修科目から編成します。各学科の人材養成の目的を達成するために必要となる講義科目、演習科目、実技・実習科目を適切に配置するとともに、基礎から応用・展開までを段階的に学べるよう「導入科目」、「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」、「展開科目」の各科目群から編成することで、科目間の関係や履修順序等に配慮した体系的な編成とします。
導入科目
　初年次教育としての「アカデミック・スキルズ」では、学部での学び方を理解するために教育課程全般、学部の DP・CP やカリキュラムツリー、各科目のシラバスやルーブリックの利用方法等について学びます。さらに、思考力や判断力、主体性や協調性を高めるための知識と技能を身につけさせる教育も提供します。また、本学の取組として、すべての学部学生が個人用 PC を有する BYOD（Bring Your Own Device）を導入しているため、「情報スキルズ」や「データサイエンス入門」等の科目を配置します。これらの科目では機器やソフトの使用方法のみならず、情報の活用方法や情報倫理に関する教育を施します。「スポーツ科学入門」は細分化されたスポーツ科学の専門分野について、それぞれの内容や特徴、トピック等を各分野の専門家である専任教員がオムニバス形式で紹介し、学部での専門教育を網羅的に把握することができる科目です。これらの導入科目は 5 学科に共通して配置します。
基礎科目
　スポーツ科学を総合的に学ぶ基礎科目として、必修科目を中心に配置します。学部基礎科目には、身体活動の基礎を学ぶ「トレーニング基礎」、「レクリエーション基礎実習」、「健康学概論」を配置し、学科基礎科目には、スポーツ科学の総合的理論を学ぶ「体育・スポーツ原論」、「体育・スポーツ史」、「解剖・生理学」、「運動・スポーツ生理学」、「バイオメカニクス」、「体育・スポーツ心理学」、「生涯スポーツ論」等の基礎科目を配置します。
基幹科目
　基幹科目には、学科の基礎となる科目、応用科目には、学科の特性に応じた応用科目や演習科目等、スポーツ科学の専門性を高める科目を配置します。
学部基幹科目には「スポーツ実技 A・B・C・D」を、学科基幹科目には、「トレーニング論」、「コーチング論」等を配置します。
応用科目
　学部応用科目には、「ゼミナール」等を配置します。学科応用科目には、「コーチング実習」、「コーチング演習」等を配置します。

展開科目
　スポーツ科学に関する知見を幅広く総括するための科目を配置し、他学科履修科目はこの科目群に含めることとします。
学部展開科目には「インターンシップ」、「海外事例研究」を、学科展開科目には、「学校保健」、「衛生・公衆衛生学」、「体育実技指導法」等を配置します。
成績評価
　成績評価は、シラバスに到達目標と基準を明記し、厳格に行います。

スポーツ健康科学科
　スポーツ科学部スポーツ健康科学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。
＜全学共通科目＞
　＜全学共通科目＞
　中京大学（以下「本学」という。）では、人類が築いてきた知の成果に対する理解を深めつつ総合的な知を身につけ、学士課程教育における人材養成の目的を達成するために、教養教育として位置づける「全学共通科目」を配置します。具体的には、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための「自然の探究」、「人間の探究」、「社会の探究」、「新領域」の科目群、外国語の実践的な運用能力を高めるための「外国語基礎」、「外国語演習」の科目群等から編成します。
　＜学部固有科目＞
　学部固有科目は、専門教育科目として位置づけ、学部共通科目、学科開講科目及び他学科履修科目から編成します。各学科の人材養成の目的を達成するために必要となる講義科目、演習科目、実技・実習科目を適切に配置するとともに、基礎から応用・展開までを段階的に学べるよう「導入科目」、「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」、「展開科目」の各科目群から編成することで、科目間の関係や履修順序等に配慮した体系的な編成とします。
導入科目
　初年次教育としての「アカデミック・スキルズ」では、学部での学び方を理解するために教育課程全般、学部の DP・CP やカリキュラムツリー、各科目のシラバスやルーブリックの利用方法等について学びます。さらに、思考力や判断力、主体性や協調性を高めるための知識と技能を身につけさせる教育も提供します。また、本学の取組として、すべての学部学生が個人用 PC を有する BYOD（Bring Your Own Device）を導入しているため、「情報スキルズ」や「データサイエンス入門」等の科目を配置します。これらの科目では機器やソフトの使用方法のみならず、情報の活用方法や情報倫理に関する教育を施します。「スポーツ科学入門」は細分化されたスポーツ科学の専門分野について、それぞれの内容や特徴、トピック等を各分野の専門家である専任教員がオムニバス形式で紹介し、学部での専門教育を網羅的に把握することができる科目です。これらの導入科目は 5 学科に共通して配置します。
基礎科目
　スポーツ科学を総合的に学ぶ基礎科目として、必修科目を中心に配置します。学部基礎科目には、身体活動の基礎を学ぶ「トレーニング基礎」、「レクリエーション基礎実習」、「健康学概論」を配置し、学科基礎科目には、スポーツ科学の総合的理論を学ぶ「体育・スポーツ原論」、「体育・スポーツ史」、「解剖・生理学」、「運動・スポーツ生理学」、「バイオメカニクス」、「体育・スポーツ心理学」、「生涯スポーツ論」等の基礎科目を配置します。
基幹科目
　基幹科目には、学科の基礎となる科目、応用科目には、学科の特性に応じた応用科目や演習科目等、スポーツ科学の専門性を高める科目を配置します。
学部基幹科目には「スポーツ実技 A・B・C・D」を、学科基幹科目には、「健康運動実践学」、「子どもスポーツ学」等を配置します。

応用科目
　学部応用科目には、「ゼミナール」等を配置します。学科応用科目には、「健康運動指導法」、「子どもスポーツ実践演習」等を配置します。
展開科目
　スポーツ科学に関する知見を幅広く総括するための科目を配置し、他学科履修科目はこの科目群に含めることとします。
学部展開科目には、「インターンシップ」、「海外事例研究」を、学科展開科目には、「レクリエーション指導法」、「体育実技指導法」、「教育実習」等を配置します。
成績評価
　成績評価は、シラバスに到達目標と基準を明記し、厳格に行います。

トレーナー学科
　スポーツ科学部トレーナー学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。
＜全学共通科目＞
　＜全学共通科目＞
　中京大学（以下「本学」という。）では、人類が築いてきた知の成果に対する理解を深めつつ総合的な知を身につけ、学士課程教育における人材養成の目的を達成するために、教養教育として位置づける「全学共通科目」を配置します。具体的には、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための「自然の探究」、「人間の探究」、「社会の探究」、「新領域」の科目群、外国語の実践的な運用能力を高めるための「外国語基礎」、「外国語演習」の科目群等から編成します。
　＜学部固有科目＞
　学部固有科目は、専門教育科目として位置づけ、学部共通科目、学科開講科目及び他学科履修科目から編成します。各学科の人材養成の目的を達成するために必要となる講義科目、演習科目、実技・実習科目を適切に配置するとともに、基礎から応用・展開までを段階的に学べるよう「導入科目」、「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」、「展開科目」の各科目群から編成することで、科目間の関係や履修順序等に配慮した体系的な編成とします。
導入科目
　初年次教育としての「アカデミック・スキルズ」では、学部での学び方を理解するために教育課程全般、学部の DP・CP やカリキュラムツリー、各科目のシラバスやルーブリックの利用方法等について学びます。さらに、思考力や判断力、主体性や協調性を高めるための知識と技能を身につけさせる教育も提供します。また、本学の取組として、すべての学部学生が個人用 PC を有する BYOD（Bring Your Own Device）を導入しているため、「情報スキルズ」や「データサイエンス入門」等の科目を配置します。これらの科目では機器やソフトの使用方法のみならず、情報の活用方法や情報倫理に関する教育を施します。「スポーツ科学入門」は細分化されたスポーツ科学の専門分野について、それぞれの内容や特徴、トピック等を各分野の専門家である専任教員がオムニバス形式で紹介し、学部での専門教育を網羅的に把握することができる科目です。これらの導入科目は 5 学科に共通して配置します。
基礎科目
　スポーツ科学を総合的に学ぶ基礎科目として、必修科目を中心に配置します。学部基礎科目には、身体活動の基礎を学ぶ「トレーニング基礎」、「レクリエーション基礎実習」、「健康学概論」を配置し、学科基礎科目には、スポーツ科学の総合的理論を学ぶ「体育・スポーツ原論」、「体育・スポーツ史」、「解剖・生理学」、「運動・スポーツ生理学」、「バイオメカニクス」、「体育・スポーツ心理学」、「生涯スポーツ論」等の基礎科目を配置します。
基幹科目
　基幹科目には、学科の基礎となる科目、応用科目には、学科の特性に応じた応用科目や演習科目等、スポーツ科学の専門性を高める科目を配置します。

学部基幹科目には「スポーツ実技 A・B・C・D」を、学科基幹科目には、「トレーナー概論」、「スポーツ救急処置」、「運動器の機能解剖学」等を配置します。
応用科目
　学部応用科目には、「ゼミナール」等を配置します。学科応用科目には、「アスリート評価法」、「ストレングス＆コンディショニング演習・実習」等を配置します。
展開科目
　スポーツ科学に関する知見を幅広く総括するための科目を配置し、他学科履修科目はこの科目群に含めることとします。
学部展開科目には「インターンシップ」、「海外事例研究」を、学科展開科目には、「健康運動実習」、「障害者スポーツ」、「体育実技指導法」等を配置します。
成績評価
　成績評価は、シラバスに到達目標と基準を明記し、厳格に行います

スポーツマネジメント学科
　スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。
＜全学共通科目＞
　＜全学共通科目＞
　中京大学（以下「本学」という。）では、人類が築いてきた知の成果に対する理解を深めつつ総合的な知を身につけ、学士課程教育における人材養成の目的を達成するために、教養教育として位置づける「全学共通科目」を配置します。具体的には、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性 を涵養するための「自然の探究」、「人間の探究」、「社会の探究」、「新領域」の科目群、外国語の実践的な運用能力を高めるための「外国語基礎」、「外国語演習」の科目群等から編成します。
　＜学部固有科目＞
　学部固有科目は、専門教育科目として位置づけ、学部共通科目、学科開講科目及び他学科履修科目から編成します。各学科の人材養成の目的を達成するために必要となる講義科目、演習科目、実技・実習 科目を適切に配置するとともに、基礎から応用・展開までを段階的に学べるよう「導入科目」、「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」、「展開科目」の各科目群から編成することで、科目間の関係や履修順序等に配慮した体系的な編成とします。
導入科目
　初年次教育としての「アカデミック・スキルズ」では、学部での学び方を理解するために教育課程全般、学部の DP・CP やカリキュラムツリー、各科目のシラバスやルーブリックの利用方法等について学びます。さらに、思考力や判断力、主体性や協調性を高めるための知識と技能を身につけさせる教育も提供します。また、本学の取組として、すべての学部学生が個人用 PC を有する BYOD（Bring Your Own Device）を導入しているため、「情報スキルズ」や「データサイエンス入門」等の科目を配置します。これらの科目では機器やソフトの使用方法のみならず、情報の活用方法や情報倫理に関する教育を施します。「スポーツ科学入門」は細分化されたスポーツ科学の専門分野について、それぞれの内容や特徴、トピック等を各分野の専門家である専任教員がオムニバス形式で紹介し、学部での専門教育を網羅的に把握することができる科目です。これらの導入科目は 5 学科に共通して配置します。
基礎科目
　スポーツ科学を総合的に学ぶ基礎科目として、必修科目を中心に配置します。学部基礎科目には、身体活動の基礎を学ぶ「トレーニング基礎」、「レクリエーション基礎実習」、「健康学概論」を配置し、学科基礎科目には、スポーツ科学の総合的理論を学ぶ「体育・スポーツ原論」、「体育・スポーツ史」、「解剖・生理学」、「運動・スポーツ生理学」、「バイオメカニクス」、「体育・スポーツ心理学」、「生涯スポーツ論」等の基礎科目を配置します。

基幹科目
　基幹科目には、学科の基礎となる科目、応用科目には、学科の特性に応じた応用科目や演習科目等、スポーツ科学の専門性を高める科目を配置します。
学部基幹科目には「スポーツ実技A・B・C・D」を、学科基幹科目には、「スポーツビジネス・産業論」、「スポーツ経営学概論」等を配置します。
応用科目
　学部応用科目には、「ゼミナール」等を配置します。学科応用科目には、「スポーツマネジメント演習」、「スポーツプロモーション」等を配置します。
展開科目
　スポーツ科学に関する知見を幅広く総括するための科目を配置し、他学科履修科目はこの科目群に含めることとします。
学部展開科目には「インターンシップ」、「海外事例研究」を、学科展開科目には、「学校保健」、「衛生・公衆衛生学」、「教科教育法」等を配置します。
成績評価
　成績評価は、シラバスに到達目標と基準を明記し、厳格に行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html　）

（概要）
　スポーツ科学部では、中京大学の建学の精神である「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」に基づき、学術の場とスポーツの場の調和を目指します。すなわち、スポーツマンシップの四大綱を体得し、体育・スポーツ、スポーツと健康、スポーツと社会に関する専門的な知識とそれを応用する能力を涵養するとともに、幅広く深い教養と科学的根拠に基づく意思決定力及び豊かな人間性を兼ね備え、広く社会に貢献できる人材を養成します。
　スポーツ科学は、スポーツの理論と実践をアカデミックな観点から総合的かつ専門的に研究する学問であり、その学びのためには、学力の3要素及びスポーツ実技能力が必要であり、特に学習意欲が求められます。
＜スポーツ科学部が求める入学者像＞
　スポーツ教育学科は、学校教育や生涯教育等、スポーツを通した教育に高い興味・関心を持ち、本学科での学びを指導者としての活動をはじめ、社会で活かすことに強い意欲を有している人を望みます。
　競技スポーツ科学科は、競技パフォーマンスを高めることを通して、合理的判断、リーダーシップ、協調的行動等、幅広い社会のニーズに対応できる能力を養成することに適した人材を求めており、自らあるいは他者の心技体を高めることに関心があり、自発的に行動する意欲を有している人を望みます。
　スポーツ健康科学科は、スポーツを通してヘルスプロモーション活動をする人材として適し、ライフステージとライフスタイルに応じた健康づくりに関心があり、健康づくりのための運動・スポーツ指導を実践する意欲を有している人を望みます。
　トレーナー学科は、スポーツ科学に関する知識を総合的に学修し、それらを応用する能力を身につけることに興味・関心がある人を求めています。特に、トレーニング科学の観点からスポーツパフォーマンスの向上や、スポーツ外傷・障害予防及び競技復帰を支援するための実践力の修得に高い意欲を有している人を望みます。
　スポーツマネジメント学科は、スポーツの振興や経営を幅広い視野から牽引･支援できる素地を持つ人材を求めています。企業や行政、非営利団体等が営むスポーツの価値を高める活動への関心と、それに関係する専門的な知識･技能を主体的かつ積極的に学び活用していこうとする高い意欲を有している人を望みます。
＜入学者選抜の方法＞
　多様な学生を受け入れるために、学力と競技力を審査するための入学者選抜試験を行っています。
　各入試方式により、学力と競技力の評価の重みづけは異なります。

学力は、筆記試験・小論文、学習成績の状況、口頭試問（面接）・調査書等の出願書類により、学力の 3 要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を総合的に評価します。

競技力（スポーツ実技能力）は、種目別に定められた基準に基づき評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/public_information/a11_02.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
―	3 人	―					3 人
文	―	16 人	4 人	1 人	人	人	21 人
国際	―	20 人	14 人	3 人	人	人	37 人
心理	―	10 人	2 人	6 人	人	人	18 人
現代社会	―	10 人	6 人	2 人	人	人	18 人
法	―	14 人	6 人	4 人	人	人	24 人
総合政策	―	13 人	2 人	1 人	人	人	16 人
経済	―	13 人	4 人	4 人	人	人	21 人
経営	―	10 人	5 人	3 人	人	人	18 人
工	―	26 人	9 人	4 人	1 人	人	40 人
スポーツ科	―	31 人	11 人	14 人	2 人	人	58 人
教養部	―	27 人	22 人	6 人	人	人	55 人
大学院	―	4 人					4 人
その他	―	人	1 人	29 人			30 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
人	523 人	523 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://kenkyu-db.chukyo-u.ac.jp/search/index.html?lang=ja&template=template1

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
文	210 人	224 人	106.7%	840 人	879 人	104.6%	若干名	人
国際英語	—	—	—	—	10 人	—	—	人
国際教養	—	—	—	—	5 人	—	—	人
国際	290 人	265 人	91.4%	1,160 人	1,133 人	97.7%	若干名	人
心理	175 人	191 人	109.1%	700 人	743 人	106.1%	若干名	人
現代社会	265 人	257 人	97.0%	1,060 人	1,122 人	105.8%	若干名	人
法	320 人	336 人	105.0%	1,280 人	1,373 人	107.3%	若干名	人
総合政策	220 人	232 人	105.5%	880 人	936 人	106.4%	若干名	人
経済	320 人	373 人	116.6%	1,280 人	1,399 人	109.3%	若干名	人
経営	325 人	347 人	106.8%	1,300 人	1,394 人	107.2%	若干名	人
工	320 人	349 人	109.1%	1,280 人	1,373 人	107.3%	若干名	人
スポーツ科	740 人	757 人	102.3%	2,960 人	3,074 人	103.9%	若干名	人
合計	3,185 人	3,331 人	104.6%	12,740 人	13,441 人	105.5%	人	人

（備考）
国際英語学部及び国際教養学部は 2020 年度より募集停止。
国際学部は 2020 年度に新設。
トレーナー学科及びスポーツマネジメント学科は 2021 年度に新設。

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
文	196 人 (100%)	6 人 (3.1%)	176 人 (89.8%)	14 人 (7.1%)
国際英語	24 人 (100%)	0 人 (0.0%)	22 人 (91.7%)	2 人 (8.3%)
国際教養	17 人 (100%)	0 人 (0.0%)	17 人 (100%)	0 人 (0.0%)
国際	178 人 (100%)	7 人 (3.9%)	159 人 (89.3%)	12 人 (6.7%)
心理	170 人 (100%)	17 人 (10.0%)	134 人 (78.8%)	19 人 (11.2%)
現代社会	259 人 (100%)	3 人 (1.2%)	237 人 (91.5%)	19 人 (7.3%)
法	308 人 (100%)	10 人 (3.2%)	272 人 (88.3%)	26 人 (8.4%)
総合政策	211 人 (100%)	2 人 (0.9%)	199 人 (94.3%)	10 人 (4.7%)
経済	305 人 (100%)	1 人 (0.3%)	286 人 (93.8%)	18 人 (5.9%)
経営	303 人 (100%)	2 人 (0.7%)	287 人 (94.7%)	14 人 (4.6%)

工	290 人 (100%)	53 人 (18.3%)	221 人 (76.2%)	16 人 (5.5%)
スポーツ科	504 人 (100%)	29 人 (5.8%)	450 人 (89.3%)	25 人 (5.0%)
合計	2,765 人 (100%)	130 人 (4.7%)	2,460 人 (89.0%)	175 人 (6.3%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）				

c.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
合計	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
○授業計画（シラバス）の作成過程
1．全学組織である「教育推進センター」委員会において「シラバス入稿時の留意事項」（以下 URL 参照）の作成・学内承認・学内周知を実施
その後、紙媒体の「シラバス入稿時の留意事項」を全教員に対して配布し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項に関する注意点などを周知
2．各学部教授会にて「シラバス入稿時の留意事項」をもとに、シラバスの作成と活用に関する FD（シラバスの趣旨・留意事項等の確認、内容充実や活用方法に関する意見交換など）を実施
3．シラバス入稿内容の適切性検証や、その充実を目的に、学部委員によるシラバス第三者チェックを、全科目を対象に実施
4．3 月中旬にシラバスを学生及び学外にホームページ上（以下 URL 参照）にて公開
□中京大学「シラバス入稿時の留意事項」
https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/news-staff/cb6aceb983120bdec89b6d067509f07a_2.pdf
□中京大学シラバス
https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus

○授業計画作成・公表時期
・授業計画（シラバス）作成…12 月～1 月　※科目担当者が入稿した内容の第三者チェックを 2 月に実施
・授業計画（シラバス）公表…3 月中旬頃（履修登録の約 2 週間前）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
○卒業の認定に関する方針の具体的な内容
卒業の認定に関する方針は、全学ディプロマポリシーを定めるとともに、すべての学部学科（教育プログラムごと）でそれぞれディプロマポリシーを定め、公表（以下 URL）している。
□中京大学全学ディプロマポリシー
https://www.chukyo-u.ac.jp/information/pdf/activity/policy/dp/dp01.pdf
□各学部学科ディプロマポリシー
https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html

○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況
各学部において卒業要件（卒業所要単位数、その他要件）を学生便覧にて学生に開示している。卒業認定にあたり、学生の修得単位数等を踏まえ、各学部において卒業判定会議を実施し、卒業可否の原案を審議する。最終的には学長が卒業判定の認定を行う。この点に関しては、各学部において概ね同様の取り扱いをしている。
・2016 年度にガイドラインに基づき全学的に DP の見直しを行った。
・学部ディプロマポリシーで示した学修成果の項目のうち、各科目がどの要素と関連するのかを示したカリキュラムマップを策定し、公表している。卒業生の単位修得科目の集計と分析を行うことで、学修成果と各科目との関係、ひいてはカリキュラムマップの適切性検証を実施している。
□カリキュラムマップ
https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
文	日本文	125 単位	有・無	単位
	言語表現	125 単位	有・無	単位
	歴史文化	125 単位	有・無	単位
国際英語	国際英語学科 国際英語キャリア専攻	124 単位	有・無	単位
	国際英語学科　英語圏文化専攻	124 単位	有・無	単位
	国際英語学科　国際学専攻	124 単位	有・無	単位
国際教養	国際教養	124 単位	有・無	単位
国際	国際	140 単位	有・無	単位
	言語文化	140 単位	有・無	単位
心理	心理	124 単位	有・無	単位
現代社会	現代社会学科　社会学専攻	124 単位	有・無	単位
	現代社会学科 コミュニティ学専攻	124 単位	有・無	単位
	現代社会学科　社会福祉学専攻	124 単位	有・無	単位
	現代社会学科　国際文化専攻	124 単位	有・無	単位
法	法律	124 単位	有・無	単位
総合政策	総合政策	124 単位	有・無	単位
経済	経済	124 単位	有・無	単位
経営	経営	124 単位	有・無	単位
工	機械システム工	124 単位	有・無	単位
	電気電子工	124 単位	有・無	単位
	情報工	124 単位	有・無	単位
	メディア工	124 単位	有・無	単位
スポーツ科	スポーツ教育	124 単位	有・無	単位
	競技スポーツ科	124 単位	有・無	単位
	スポーツ健康科	124 単位	有・無	単位
	トレーナー学科	124 単位	有・無	単位
	スポーツマネジメント学科	124 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
名古屋キャンパス　https://www.chukyo-u.ac.jp/information/facility/g1.html
豊田キャンパス　https://www.chukyo-u.ac.jp/information/facility/g2.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文	日本文 言語表現 歴史文化	1年	825,000円	200,000円	277,000円	教育充実費（入学時のみオリエンテーション実習費7,000円）
		2年	825,000円	円	270,000円	
		3年	825,000円	円	270,000円	
		4年	825,000円	円	270,000円	
国際英語	国際英語	1年	－円	－円	－円	教育充実費（令和2年度より募集停止のため入学金は無記載、授業料等は在学生のいる4年のみ記載）
		2年	－円	円	－円	
		3年	－円	円	－円	
		4年	835,000円	円	320,000円	
国際教養	国際教養	1年	－円	－円	－円	教育充実費（令和2年度より募集停止のため入学金は無記載、授業料等は在学生のいる4年のみ記載）
		2年	－円	円	－円	
		3年	－円	円	－円	
		4年	855,000円	円	280,000円	
国際	国際（GLS専攻除く） 言語文化	1年	498,000円	200,000円	202,000円	教育充実費
		2年	996,000円	円	404,000円	
		3年	996,000円	円	404,000円	
		4年	996,000円	円	404,000円	
国際	国際（GLS専攻）	1年	871,500円	200,000円	353,500円	教育充実費
		2年	871,500円	円	353,500円	
		3年	871,500円	円	353,500円	
		4年	871,500円	円	353,500円	
心理	心理	1年	860,000円	200,000円	330,000円	教育充実費、実験実習費
		2年	860,000円	円	330,000円	
		3年	860,000円	円	330,000円	
		4年	860,000円	円	330,000円	
現代社会	現代社会	1年	805,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	805,000円	円	270,000円	
		3年	805,000円	円	270,000円	
		4年	805,000円	円	270,000円	
法	法律	1年	805,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	805,000円	円	270,000円	
		3年	805,000円	円	270,000円	
		4年	805,000円	円	270,000円	
総合政策	総合政策	1年	825,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	825,000円	円	270,000円	
		3年	825,000円	円	270,000円	
		4年	825,000円	円	270,000円	
経済	経済	1年	805,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	805,000円	円	270,000円	
		3年	805,000円	円	270,000円	
		4年	805,000円	円	270,000円	
経営	経営	1年	805,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	805,000円	円	270,000円	
		3年	805,000円	円	270,000円	
		4年	805,000円	円	270,000円	

工	機械ｼｽﾃﾑ工 電気電子工 情報工 ﾒﾃﾞｨｱ工	1年	935,000円	200,000円	445,000円	教育充実費、実験実習費
		2年	935,000円	円	445,000円	
		3年	935,000円	円	445,000円	
		4年	935,000円	円	445,000円	
スポーツ科	ｽﾎﾟｰﾂ教育 競技ｽﾎﾟｰﾂ科 ｽﾎﾟｰﾂ健康科 ﾄﾚｰﾅｰ ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	1年	890,000円	200,000円	415,000円	教育充実費、実験実習費
		2年	890,000円	円	415,000円	
		3年	890,000円	円	415,000円	
		4年	890,000円	円	415,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

学生の修学に係る支援として、学部ごとにオフィスアワー・履修アドバイス制度（成績不良学生への指導方法及び基準）、担任制等のサポートを実施しており、学生に対しては学生便覧や公式ホームページ、ガイダンス等を通じて周知している。また、授業補助者（TA・SA）制度と運用について、授業補助を行うことによる、「当該科目履修生への学修支援の効果」、「TA従事学生の指導者となるためのトレーニング機会としての効果」の両面から、広義の学修支援と捉え、情報公表している。さらに、外国人留学生を対象に「外国人留学生生活マニュアル」を作成しており、ガイダンスで配布および説明するとともに、実際の学生生活の様々な場面における支援とサポートを行っている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

入学直後から卒業後の自分を見据えられるキャリア支援を実施。早期に就職への意識を高めるとともに、自己の発見と、将来の進路選択を学生に促している。

就職活動や将来の進路を考える上で大切なことは、自分に何ができ、何にやりがいを感じるかを理解【自分を知る】し、社会にはどんな企業や仕事があり、どんな働き方があるかを理解【相手を知る】することである。

この【自分を知る】、【相手を知る】ための支援として、独自の情報を発信するホームページ「キャリア・ナビ」、就職活動対策の「各種イベント＆ガイダンス」、常駐するキャリアカウンセラーや学生アドバイザーによる「カウンセリング」といった3つのサポートを提供し、これらのサポートを通じて、自ら考え行動できる学生を育成している。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

１．保健室(名古屋キャンパス・豊田キャンパス)と保健センター(豊田キャンパス)の設置

①保健室、保健センターともに看護師が常駐し、キャンパス内での怪我や体調不良に対応している（保健室、保健センターともに利用時間は平日の9時から17時。土日・祝日は閉室）。

②名古屋キャンパス保健室、豊田キャンパス保健センターでは、校医による健康相談を実施している。

③保健センターでは、保険診療体制をとっている。整形外科医が週4日、内科医が月2日診察している。

２．定期健康診断の実施

①毎年3月末～4月初めに、全学生を対象とした定期健康診断を実施している。

３．学生サポートセンター、カウンセリングルームの設置

①学生サポートセンターでは、毎年新入生を対象とした、心の健康の理解と増進を目的としたアンケートを実施している。

②名古屋・豊田の両キャンパスに学生サポートセンター、カウンセリングルームを設置している。公認心理師・臨床心理士有資格者の心理カウンセラーが常駐し、一般相談と心理相談に対応している。障害のある学生を含めた全学生の修学や学生生活における悩みについて相談できる窓口や学生の居場所を提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/public_information/all.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F123310106595
学校名（○○大学 等）	中京大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人梅村学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		914人	878人	958人
内訳	第Ⅰ区分	531人	511人	
	第Ⅱ区分	241人	242人	
	第Ⅲ区分	142人	125人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				16人
合計（年間）				973人

（備考）
家計急変による支援対象者の中には、2023年度後半期から支援対象者（家計急変による者を除く）に変更となった者を含む。
実績報告後に支援区分（第Ⅱ区分）が確定した学生については、後半期の人数に含める。

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号、第４号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	－	人	人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	－	人	人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	－	人	人
「警告」の区分に連続して該当	－	人	人
計	17人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	3人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	39人
（備考） 年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	－	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	135人	人	人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	－	人	人
計	136人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。